令和元年度

事　業　報　告　書

学校法人　大阪青山学園

目　次

Ⅰ	法人の概要	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
ⅰ	所在地	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
ⅱ	設置する学校	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
ⅲ	大学、短期大学及び幼稚園の入学定員、収容定員及び在籍者数	・・・・・・・	1
ⅳ	役員・教職員数	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
Ⅱ	事業の概要	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
ⅰ	はじめに	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
ⅱ	法人事務局	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
1	理事会・評議員会	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
2	将来構想委員会	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
3	大学改革委員会	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
4	総務部	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
ⅲ	大阪青山大学　健康科学部	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
1	健康栄養学科	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
2	子ども教育学科	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8
3	看護学科	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	11
ⅳ	大阪青山大学短期大学部	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	13
1	調理製菓学科	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	13
ⅴ	附置・附属機関	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	20
1	大阪青山歴史文学博物館	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	20
2	図書館（図書室・メディアセンター）	・・・・・・・・・・・・・・・	24
3	体育館	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	26
4	共通教育センター	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	29
5	情報教育センター	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	31
6	学習支援室	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	35
ⅵ	委員会	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	40
1	大学 自己点検評価委員会	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	40
2	ＦＤ推進委員会	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	42
3	ＳＤ推進委員会	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	43
ⅶ	事務部門等	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	46
1	総務部	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	46
2	教務部	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	47
3	保育・教職支援室	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	48
4	学生支援センター	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	51
5	進路支援センター	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	58
6	入試部	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	64
ⅷ	青山幼稚園	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	65

令和元年度事業報告書

Ⅰ　法人の概要

ⅰ　所在地

◎学校法人大阪青山学園
　　大阪府箕面市新稲２丁目 11 番１号
◎大阪青山大学
　　大阪府箕面市新稲２丁目 11 番１号
◎大阪青山大学短期大学部
　　大阪府箕面市新稲２丁目 11 番１号
◎青山幼稚園
　　大阪府吹田市青山台４丁目５番

ⅱ　設置する学校

１　大阪青山大学
　健康科学部　健康栄養学科
　子ども教育学科
　看護学科

２　大阪青山大学短期大学部
　調理製菓学科
　　調理コース
　　製菓コース

３　青山幼稚園

ⅲ　大学、短期大学及び幼稚園の入学定員、収容定員及び在籍者数

（在籍者数：令和元年５月１日現在）

区分		入学定員	収容定員	在籍者数	備考
大学	健康科学部健康栄養学科	80	320	287	平成 17 年４月設置
	健康科学部子ども教育学科	80	340	326	平成 20 年４月設置（平成 25 年度名称変更）
	健康科学部看護学科	80	320	334	平成 27 年４月設置
	計	240	980	947	
短期大学	調理製菓学科	60	120	87	
	計	60	120	87	
合計		300	1,100	1,034	
幼稚園			590	398	※認可定員

ⅳ　役員・教職員数

1　役員数（令和元年７月１日現在）

・理事　　８名　　・監事　　２名

・評議員　17 名

2　教職員数（令和元年５月１日現在）

	教授	准教授	専任講師	助教	助手	教諭	事務職員
法人	－	－	－	－	－	－	1
大学	33	11	14	7	2	－	34
短期大学	4	3	1	0	0	－	2
幼稚園	－	－	－	－	－	24	1

※大学の教授数には学長・副学長を、幼稚園の教諭数には園長を含む。

Ⅱ　事業の概要

ⅰ　はじめに

私学を取り巻く環境は、少子化、学生・保護者のニーズの多様化、経済不況など社会環境の急激な変化とともに厳しさを増している。特に「2018 年問題」は，近年横ばいであった 18 歳年齢人口が平成 30 年から大きく減少していくこととなり、益々激しさが増していく。また、類似学部・学科を持つ近隣大学との学生の獲得競争や補助金をはじめとする競争的資金の獲得競争は大学の二極化を加速させている。

このような環境の中で、本学は安定した経営基盤と確固たる教育の質保証により「入学したい大学」として有り続ける必要がある。今後、平成 27 年度に設置した健康科学部看護学科の平成 30 年度の完成や、令和 2 年度入試における短期大学部調理製菓学科の学生募集停止による学園状況などを踏まえ、学園の将来計画の早急な策定が課題である。

このため、第 2 次中期計画（平成 28 年度～令和 2 年度）の基本構想を踏襲しつつ平成 31 年 4 月に改正を行った修正中期計画に基づき事業を継続し推進した。また、経営基盤の安定と改善のために策定した経営改善計画（平成 28 年度～令和 2 年度）についても見直しを行い、修正計画に基づいた事業の推進を継続した。本年度の予算編成方針の柱は、平成 28 年度から継続する「財務体質の改善と強化」とし、この方針により、学部・学科及び部署の事業を以下のとおり推進した。

ⅱ　法人事務局

1　理事会・評議員会

理事会は、本学園の経営が急激な社会環境の変化に対応できるよう、経営機能と

管理運営機能の充実を図るため毎月一回の開催を基本とし、常任理事会を通しての学園、設置校の情報を早期に着実に求め、活発な運営に努めた。理事会と常任理事会等の役割に関し、理事会からの委任事項を明確化するために平成 29 年度に整備された関係規程に基づき、機動的な理事会運営を行った。

また、平成 28 年度に策定した経営改善計画（平成 28 年度～令和 2 年度）を円滑に計画通りに実行するために設置された経営改善実行プロジェクトについては、引き続き理事会がこれを統括した。

評議員会は、理事長が理事会の審議に先立って意見を聴取し、また理事会の決定を報告して意見を求めることにより、評議員会の意見を経営に反映した。

なお、令和 2 年 4 月施行の私立学校法の一部改正に伴い、学園の寄附行為の改正及び役員の報酬等の支給の基準の制定の原案を令和 2 年 3 月の理事会・評議員会で承認し、役員の職務と責任の明確化や法人運営の透明性の向上などの規定を整備した。

また、法人運営の適正化と透明性を確保するために「大阪青山学園　ガバナンス・コード」の制定についても、同時期に併せて理事会・評議員会で承認した。

2　将来構想委員会

第 2 次中期計画（平成 28 年度～令和 2 年度）の基本構想及び修正計画に基づき事業の策定・推進を図った。特に平成 27 年度に設置した看護学科の平成 30 年度の完成及び令和 2 年度入試における短期大学部調理製菓学科の学生募集停止による学園状況を見据え、大学の多様化に向けた拡充策などを検討するとともに具体的な施策と取組を大学改革委員会に委ねることとした。

3　大学改革委員会

将来構想委員会により策定された第 2 次中期計画（平成 28 年度～令和 2 年度）、さらには中期計画の修正も踏まえて具体策を策定するなど取組みを継続した。平成 27 年度に委員会内に設置した「教育の質的転換プロジェクト」については令和元年度から「自己点検評価委員会」に機能を集約し、他の「地域発展プロジェクト」、「財務改善プロジェクト」とともに継続してそれぞれの課題解決に向けた取組みを行った。

また、近隣自治体である箕面市、池田市、川西市に大学運営アドバイザーを継続して委嘱して意見を聴取し、外部からの意見を反映する運営システムの充実を図った。

なお、3 月に近隣の高等学校からの教員参加による「高大情報交換会」については、新型コロナウイルスのため開催できなかった。

4　総務部

(1) 組織・制度の適正化

法人組織を見直し、令和 2 年 4 月から法人事務局に「経営企画室」を設置することとし、大学の組織である「学習支援室」を同年 4 月から「リテラシーサポー

トセンター」に改正すること、さらに令和2年4月から法人に顧問を置くことについて本事業年度内に機関決定を行った。

各部門･学科の収支構造の改善を伴う学園の財務構造の適正化を実現するため、厳正な予算管理を行うとともに、予算精度の向上化に努めた。

(2) 校舎・設備等の整備

令和元年度は中長期設備計画を理事会承認の上で整備した。令和元年度は本計画に基づき、学園内の教育環境の改善、さらに学生・教職員の快適な環境を提供すべく以下の設備更新等を計画的に実施した。

・2号館エレベータの取替工事
・本館ＭＬ教室の改修及び1号館ＭＬ教室のピアノレッスン室への改修工事
・1号館4階ピアノレッスン室（6室）の研究室への用途変更工事
・箕面キャンパスの食堂改修工事
・校舎、設備等の老朽化に伴い、空調設備をはじめ更新計画に基づく改修等を適切に行い、教育研究環境の整備に努めた。

(3) 外部資金の獲得の活性化

科学研究費補助金や研究助成金など競争的資金等の外部資金の獲得支援を行い14件（代表4件、分担10件）総額26,340千円（前年度比△2,150千円）の科学研究費補助金を獲得した。また、助成財団から2件800千円の助成を獲得し、助成金は寄付金として受入れた。

(4) 寄附金募集活動の活性化

「教育振興資金」として、ホームページを活用した広報活動等を積極的に行うとともに税額控除制度の適用について周知を図り、同窓会員、大学関係者及び企業等から広く募金を求めた。特に平成29年の学園創立50周年を契機として、寄附金の増収に努めている。

教育振興資金をはじめとする寄附金（一般寄附金及び特別寄附金）は、51件総額12,858千円と前年度を2,721千円上回る結果となった。

なお、この中には企業からの受配者指定寄附金1件800千円や助成財団からの寄附金などが含まれている。

iii　大阪青山大学

◎健康科学部

1　健康栄養学科

(1) 管理栄養士国家試験対策の強化

第34回国家試験合格率は62.3%（12期生69名受験）であった。今年度は希望者全員が受験し合格者数は 43 名と過去最多であった。既卒者の合格率および受験者数は4.8%（21名受験）であった。

① 在学生への支援

管理栄養士国家試験の受験者数および合格率の向上を目指し、学科教職員全員できめ細やかな支援を行った。4 年次生に国家試験対策における学生カルテを作成し、個々人の学修状況の把握に努めた。国家試験対策講座として教員による講義や過去問題集の配布、自習時間における個別対応を実施した。

② 卒業生への支援（卒後支援）

管理栄養士国家試験対策に関する情報提供をはじめ、教材の郵送、対策講座や模擬試験への参加勧奨、管理栄養士国家試験受験に係る書類送付等の支援を行った。

③ 国試対策室の重点化

学科教職員で組織し、国試対策の強化を図った。外部講師を招き、試験対策の技術面に関して指導を行った。模擬試験は月 1 回以上実施し、学生の学修状況の把握を行った。

(2)「キャリアデザイン」科目の開講

「キャリアデザイン」科目の開講を検討した。大学生として初歩的なキャリア教育が必要とされている。現在開講している「管理栄養士入門」は、管理栄養士に求められる資質・能力について理解を深められるよう 1 年次生におけるキャリア教育の導入として位置付けていくと共に、2, 3 年次生における継続的なキャリア教育の実施を検討した。

(3) 就職・進学支援

進路支援センターとミーティングを実施し、学生の就職活動の状況や内定状況等を把握し、学生への支援体制を整えた。また就職活動を行っていない学生に事情を聴き、就職希望でありながら行動していない学生については進路支援センターへの相談を促した。進学支援としては、学生各自の希望に合わせて主に近畿圏にある大学院の情報提供を行っている。毎年数名の学生が大学院および専門学校に進学している。本年度は既卒者も含め 2 名が進学した。

今年度から、コース制を導入し、学科の特色を可視化すると共に、専門性の高い学びのために「医療栄養コース」、「食育・栄養教育コース」および「フードマネジメントコース」の 3 コース制とした。実質的なコース特別活動は次年度以降であるが、学生の多様なニーズに対応するため、新たに「健康スポーツ栄養コース」を加えて、4 コース制として支援する予定である。

(4) 入学前教育の実施

化学・生物の通信課題を実施した。今年度、費用は個人負担として実施したが、41 名の学生が参加した。入学前教育は、高等学校において化学、生物を履修していない学生にとっては不可欠であり、通信課題のみでなく集中講義の実施についても検討した。

(5) 学修支援の強化

基礎学力の底上げとして、初年次教育『化学・生物』の補講を行った。対象者としては、基礎学力テストの成績に応じて、約半数の学生にこれらの科目と共に「実用数学」を受講させた。なお、教育効果を上げるため、入学前教育と初年次教育との一貫性について検討した。

(6) 自習室の増設および使用時間の延長

大学での学生相互の自主学習や情報交換は、学生の学習に対する意識向上に関わっている。学科事務室及び助教の研究室の利用を有効化させ、研修室も担当教員の監視下で、利用時間が延長できるよう改善した。

(7) 臨地実習の実施

臨地実習は、学内で修得する知識・技術を栄養管理の実践の場で実習・演習し、理論と実践を結びつけて理解することを狙いとして行われる必修科目である。3 年次前期に事前指導を実施した。給食経営管理分野は令和元年 8 月～9 月に主に大阪府内の事業所の給食施設において、公衆栄養分野は令和元年 8 月～9 月に大阪府内の保健所・保健センターにおいて、臨床栄養分野は令和 2 年 2 月～3 月に大阪府内の病院を中心に実施した。実習後にそれぞれ報告会を行った。なお、臨床栄養分野については、新型コロナウイルス感染症の拡大のため実施できていない。

(8) 保護者懇談会の実施

令和元年 5 月 25 日（土）に本学において保護者会および個人面談を実施した。学科懇談会は 32 家族 40 名の参加があり、個人面談は 18 家族 24 名について実施した。

(9) 地域連携の取組み

① 卒業研究等による連携

近隣の幼稚園・小学校・保健所・保健センター・医療機関・福祉施設などと連携した食育活動について現地に赴き食育媒体や調理実習を活用し実施した。

② 箕面市立病院医療・看護フェア

令和元年 5 月 9 日（木）、10 日（金）に開催された医療・看護フェアに 4 年次生が参加し、SAT システムによる食生活診断を実施した。

③ 葉酸たまご甲子園

「葉酸たまご甲子園」は、栄養素「葉酸」の役割を多くの女性に広めるために、栄養学を学ぶ学生を対象とした料理コンテストであり、「葉酸と母子の健康を考える会」が毎年開催している。今年度は、令和元年 9 月 5 日(木)に京都調理専門学校で実施され、健康栄養学科 2 年次生 3 名が出場した。

(10) 実験・実習環境の整備

① 実習室の整備

（特殊栄養実習室・給食経営管理実習室・308 調理実習室・臨床栄養室）

実習室の整備として、調理器具や食器（電子天秤、ミルサー、塩分濃度計）、体組成計、簡易血中乳酸器、ダンベルを購入した。製氷機、ホットフードカートを修繕した。

② 実験室の整備（理化学実験室・学生実験室・生物科学実験室）

実験室の整備として、卓上型物性測定器、遠心機、オーブンレンジ、ボルテックスミキサー、ホットプレートミキサーを購入した。

(11) 学外研修の実施

① 3 年次生(13 期生)の 1 泊研修の実施

下記のとおり実施した。

日程：令和元年 10 月 16 日（水）～17 日（木）

対象：3 年次生　59 名

引率：教員 3 名

行先：株式会社ヤクルト本社三木工場、大塚製薬株式会社能力開発センター
大塚食品株式会社、大塚国際美術館、渦の道、姫路城、酒蔵灘菊

宿泊：ルネッサンスリゾートナルト

② 3 年次生（13 期生）の洋食テーブルマナーの実施

下記のとおり実施した。

日程：令和元年 10 月 16 日（水）

対象：3 年次生　59 名

引率：教員 3 名

行先：ルネッサンスリゾートナルト

③ 4 年次生(12 期生)の和食テーブルマナーの実施

下記のとおり実施した。

日程：令和元年 10 月 17 日（木）

対象：4 年次生　76 名

引率：教員 3 名

行先：京都伏見　清和荘

(12) 資格支援

① 栄養士免許申請に関する支援

栄養士免許申請に関する支援を行った。4 年次生 72 名が取得した。

② 栄養教諭課程履修に関する支援

4 年次生 7 名、3 年次生 9 名について、栄養教諭免許取得に係る支援を行った。

③ フードスペシャリスト認定試験の実施および資格取得支援

令和元年 12 月 15 日（日）に 3 年次生 24 名が受験し、14 名が合格した。4 年次生 16 名が資格申請を行った。

④ フード サイエンティスト資格取得支援

令和元年 10 月 25 日（金）に資格取得に係る講演『葉酸と赤ちゃんの健康』を実施した。今年度の資格申請者はなかった。

⑤ 健康運動実践指導者資格取得支援

4 年次生 7 名が受験し、全員合格した。全員が資格申請を行った。

⑥ 全国栄養士養成施設協会栄養士実力認定試験の実施

令和元年 12 月 8 日（日）に 3 年次生 27 名が受験した。

(13) 学科事務室業務

① 学生対応

学生が抱えている国試対策や実習・実験、学生生活などの疑問点、悩み等について、担任や担当教員と連携し、対応した。

② 業務改善

教員・学生が利用しやすいように環境づくりを行った。また、授業等で使用する教科書や国試対策の参考資料を厳選し、整理整頓した。

2　子ども教育学科

(1) 学科の教育理念に基づいた授業内容の充実と再構築

本年度は､学科の教育理念に基づいた初年次教育の内容について見直しを行った。特に、高等教育に必要となるアカデミックスキルを身につけるための「学修基礎演習」やキャリア形成に必要な「キャリアデザイン」の授業内容を重点的に見直した。両科目の新たな取り組みについては、令和 2 年度から適用する。

また、本年度入学生より、幼稚園・小学校教諭養成カリキュラムが新課程となった。幼稚園教諭課程については、令和 4 年度中に再度、再課程申請をする必要があるため、科目担当者の配置ならびにカリキュラム配当について引き続き検討していく。

(2) 初年次教育と学生指導の充実

近年、特別な支援ニーズのある学生の増加が目立つ。特に、基本的生活習慣と単位取得状況に課題のある学生への指導については、担任のみでは指導に困難を要する例も少なくないことから、学科内での情報共有や連携を強化し、学生指導の充実に努めた。

学科独自の新入生歓迎行事を実施し、学生相互の交流を図り、学生同士による自助力の育成に努めた。

(3) 2 年次生以降の教育と学生指導の充実

平成 29 年度入学生より実施した 3 コース制を手がかりに、引き続き各授業やキャリア支援を行った。その際、子ども教育学科と保育・教職支援室及び、進路支援センターとの相対的独自性をふまえ、学生の就職活動の支援強化に努めた。

実習については､保育士･教員養成プログラムのなかで重要な位置を占めるため、全教員による実習指導体制をとると共に、GPA 制度を用い、実習指導における個別指導の適切化を図った。

また、担任制度を活用しながら特別時間にて個人面談を実施し、学生生活及び進路支援等への対応を行いながら、そこから浮かび上がった支援上の課題を学科内で共有を諮り、新たな支援体制の再構築に向けて検討した。

(4) 保育・教育実習及び就職指導体制の充実

平成30年度に設置された「保育・教職支援室」の存在と役割が学生に認知されることにより、実習・就職支援体制が年度ごとに充実しつつある。このことにより、本年度の教員採用試験現役合格者及び、公立保育所の合格者が既卒生を含め、過去最高の結果となった。

一方、令和元年度からの教員免許法の改正に伴い、大学外の関係機関との連絡調整等を行う「実習合同委員会」を年度末に開催する予定であったが、新型コロナウィルスにより、本年度は開催することができなかった。

〈本年度の教員採用試験合格者数〉

・大阪府：4名（うち、既卒生：3名）
・大阪府豊能地区：4名（うち、既卒生：2名）
・大阪市：3名（うち、既卒生：2名）
・他地区：3名（うち、既卒生：2名）
・吹田市（保育士）：1名
・豊能郡（保育士）：1名

(5) 実験科目や実技関連科目などの基盤整備

本年度は、総務部との連携を元に、ML教室及びピアノレッスン室の改修工事を行った。このことにより、音楽関係の学習環境の一部改善ができた。しかしながら、音楽室やシアタールーム、図工室、保育・教職関連科目に使用する教室などについては未着手であり、次年度以降の重点的課題とする。

(6) 学生の自習環境の整備

平成26年度から学科学生が日常的に利用できることになった4号館6階の研修室の利用が採用試験のための自主学習室として定着してきた。しかしながら、これらは、試験を目前に控えた4年次生中心の自習室となっており、早期から試験対策に臨む他学年のための自習環境の整備も必要である。さらに、2次試験以降に求められる、面接や模擬保育・授業のための自習環境が不十分であるため、学科内で検討しながらさらなる自習環境の整備に努める。

(7) 公開講座への主体的関与と新たな開講

各教員の専門性に伴う地域関連のイベント・行事への講師招聘には応じることはできたが、大学全体で開講する公開講座に対して、子ども教育学科の専門性を発揮した関与を積極的にすすめることはできなかった。

(8) 子育て支援室のさらなる充実と地域への開放

平成23年度末より子育て支援室を開放し、近隣の親子が利用できる体制としてお

り、現在、利用者も増え多様な親子が利用している。特に、幼稚園未就園児の利用頻度が高く、3 歳未満児の絵本・玩具等を整備する必要性が出てきた。地域貢献の一端として、箕面市特有の子育て世代のニーズを理解・検討をすすめ、尚且つ、本学教員・学生の研究・学修に活かすことが出来た。

(9) 中退者の抑制

年度を重ねるごとに、不本意入学・生活習慣の問題から、入学後の早期に退学を選択する学生が増加傾向にある。そのため、子ども教育学科では以下のような対応を行った。

① 担任を中心とした、進路に迷いが生じている学生への支援
② 単位取得状況及び学生生活が芳しくない学生に対する早期面談の実施
③ 保護者への連絡・面談
④ 資格取得が困難な学生への早期からの進路支援
⑤ 早期退学・休学抑止のための初年次教育の見直し

(10) 定員充足と入学試験の在り方

学科定員を充足及び不本意・無目的入学者を避けるため、入試部との連携を元に、高校への出張授業等を積極的に行った。

入学試験については、保育・教育現場での活躍が期待できる学生をより多く確保するため、新たな入試形態の導入について検討を行った。これについては、令和 2 年度実施の総合選抜型入試より、音楽（ピアノ）型試験として実施する。

(11) 広報戦略の在り方

子ども教育学科への入学意欲が高まるような広報戦略を入試部と連携して、高校への出張授業を積極的に試みると共に、大学案内の内容などで若干の工夫を試みた。

また、オープンキャンパスでの学生スタッフの育成に努め、学生による大学生活及び将来展望への見通しを高校生に伝え、志望動機が高まるよう努めた。

(12) 保護者との連携の強化

保護者懇談会を開催し、保護者の意見を集約して学科の学生教育に生かすとともに、保護者と教員が連携して三者面談などを行うことで学生の学修上・生活上の問題に適切に対処した。また、学習・生活状況に課題があると思われる学生については、担任を介し、早期に保護者面談を実施するよう努めた。

(13) 卒業生との交流

昨年度末に実施した、卒業生との交流について本年度も引き続き開催する予定であったが、新型コロナウイルスの関係で実施することができなかった。卒業生と在学生の交流は、在学生のキャリア教育に還元されるため、交流の在り方とネットワークづくりについては、今後も引き続き検討していく。

3　看護学科

(1) 看護師・保健師国家試験対策プログラム作成と支援

① 看護師国家試験対策講座、模擬試験

期初計画に基づき、令和元年度において下記のとおり国家試験対策プログラムおよび国試対策講座を実施し、学生支援を行った。しかし、新型コロナウイルスに伴い、2 月及び 3 月の模擬試験及び国試対策講座の中止を余儀なくされた。

加えて、必須問題対策講座として、模擬試験の結果で必須問題 80%未満の学生を対象に 10 月から合計 7 回の講座を実施するとともに、さらに 11 月末日からは国家試験強化対策として、全領域の教員の協力のもと、合計 22 回の講座を実施した。

1 年次生：国試対策講座（3 コマ）と学内模擬試験（1 回）の実施

2 年次生：国試対策講座（3 コマ）と学内模擬試験（1 回）のを実施

3 年次生：国試対策講座（9 コマ）と模擬試験（1 回）を実施予定も中止

4 年次生：国試対策講座（66 コマ）と模擬試験（7 回）を実施

上記のとおり学年進行により、一層充実した内容とするとともに、学生の国試受験へのモチベーション向上に努めた。

一方、既卒生への対応として担当者を決め、定期的に連絡をし、学習に臨めるように支援した。

今年度の看護師国家試験合格率は、91.1%（全国の合格率 89.2%）であった。

② 保健師国家試験対策講座、模擬試験

保健師については、令和元年度に国家試験対策を以下の通り、実施した。

4 年次生：国試対策講座（36 コマ）と模擬試験　5 回実施

今年度の保健師国家試験合格率は 90.9%（全国の合格率 91.5%）と全国の合格率よりやや低かったものの、新卒者の合格率は 100%であった。

③　外部講師による講義等

高校で生物を学んでいない学生が少なからずいることから、平成 31 年度にプレイスメントテスト結果に基づいて下位 40 名の学生に対し、空き時間の 8 コマを確保し、外部講師による講義を実施した。実施後の学生のアンケートでは、「生物」や「解剖生理」の授業に取り組みやすくなったとしている。一方、昨年度と異なり、途中で欠席する学生も目立ったことからチューターを介して、学生に出席するよう注意喚起を行った。今後これらの成績との相関を検証していく必要があると考える。

(2) 就職支援体制の設計と支援

平成元年度の就職支援活動として、進路支援センターと連携を取りながら、1 年次生から 3 年次生を対象に合計 9 回実施した。なお、3 年次生を対象として実施予定であった「履歴書の書き方など」セミナーの 2 回は、コロナの影響で中止を余儀なくされた。

具体的明細としては、1 年次生には、「キャリアデザインとは」、「実習前マナー講座」、「コミュニケーション力」を、2 年次生には「実習前講座」、「コミュニケーシ

ョン力」を対象セミナーとして行い、学生からは、概ね好評を得た。3 年次生には就職に直接つながる内容として、「文章を書いてみよう」「就活の進め方」「実習病院説明会」を実施した。一部学生の出席率が低かった講座も見られたが、概ね好評であった。

今年度は、初めて 1 期生卒業後のフォローとして「ホームカミングディ」を 7 月 20 日に実施した。参加者は卒業生が 17 名と少なかった。この原因として卒業生への案内が遅く、既に勤務が決まっており都合がつかなかったかったことから、次年度は、卒業時に学生に案内するように計画している。

(3) 保護者懇談会の実施

例年のとおり保護者懇談会実施時に希望する保護者へ個別面談を実施した。学生個々人の成績を基として、個別・具体的な指導を行うとともに、個別に抱える問題につき、相談に応じた。

(4) 臨地実習の実施

3 年次生後期授業科目の「各論領域実習」については、大きな事故等もなく無事終了することができた。

なお、学生の実習に取組む姿勢や受入施設側の問題も少なからずあったが、大きな問題に発展することもなく、実習を無事終了した。しかし、昨年度と比較して今年度は、実習単位未修得者が多かった。今後実習に向けて、実習前の学習およびマナーの強化に努めたい。

(5) 臨地実習施設との協力体制の構築

4 年間の看護教育に占める臨地実習の重要性は高いが、施設の方々の負担を考慮し、今年度からは、「臨地実習合同連絡会」から、領域毎に施設との交流・調整を図った。このことにより、大きな問題などの発生は見られなかった。

(6) チューター制度による学生支援

学生支援については、学業への不安や実習先での躓き、国家試験受験へのモチベーション維持など、チューターによるきめ細かな指導が行なえていると考える。

看護学科では、原則 1 年次生から 3 年次生までチューターは変わることなく、一貫して指導が行えることから、教員と学生の絆はより強くなり、保護者を交えた懇談など、より深い支援・指導が行なえている。4 年次生はゼミを通して学生とのかかわりがより濃厚となり、密着した国試対策や就職指導が行えたと考える。

(7) 解剖見学実習

今年度から、新カリキュラムに変更され、かつ担当教員が変更になったことから、担当教員の意向を踏まえて、解剖見学実習が中止となった。

(8) 日本の文化、伝統芸能に対する理解を深める教育

前年度に引き続き、文楽と歌舞伎の鑑賞を行った。学外での芸術鑑賞を伴う科目であることから、受講者数に制限を設けての開講となっているが、受講希望者は多く、学生のニーズに合った科目となっている。また、本学の教育目標である「日本の文化と伝統を理解し感性と知性を磨く人」との関連性も高く、目指すべき教育を実践しているものと考える。

(9) 学術活動

① 学術講演会

令和元年度において、下記のとおり学術講演会を開催した。

テ ー マ：地域で生活する精神障害者の現状と精神障害者を支える社会資源

開催日時：令和元年 6 月 4 日

講　　師：Ai スローライフ訪問看護ステーション代表　竹原照雄　先生

② 大阪青山大学看護学ジャーナルの発刊

上記ジャーナル第 3 巻を発行予定である。論文は現在査読中を含め、研究報告 4 編、実践報告 3 編である。

(10) 学生募集への取組み

開設準備の段階からガイダンスや模擬講義等、高校生への募集活動に積極的に取組むとともに、看護学科への志望者数・受験数の増加を見込んでオープンキャンパスの内容を吟味するなど継続的に検討している。

(11) 地域連携活動の取組み

大学の地域連携活動に協力し､看護学科教員も下記のとおり講演会講師を務めた。

○テ ー マ：脳トレでイキイキ長生き　～認知症を知り、予防に努める～

開催日時：令和元年 10 月 16 日

講　　師：西地　令子　教授　＋　学生

○テ ー マ：加齢による「筋肉の衰え」を考える

開催日時：令和 2 年 2 月 5 日

講　　師：奥野　久美子　准教授

(12) 他大学との交流

日本看護系協議会、日本私立看護系大学協会を通して会員校との親睦を図ることができた。日本における看護教育の潮流、今後の課題などを的確に把握し、今後とも学生教育への還元に努める。

ⅳ　大阪青山大学短期大学部

1　調理製菓学科

(1) 教育理念・目標の明確化

学科カリキュラム理念として「調理･製菓の技と感性を磨き、即戦力となる「食」

のスペシャリストを育てるカリキュラム」を掲げ、基礎的な知識と技術を徹底的に習得させると共に即戦力となる能力を身に付ける為の実践的な授業を展開した。

(2) 学外研修・集中講義関係

① 1年次生　西洋料理テーブルマナー研修

食の専門職を目指す人材として会食時に身につけておくべき、国際的な礼儀や基礎知識を一流ホテルでのテーブルマナー講習の実践を通じて養う研修を実施した。

対　象：調理製菓学科1年次
実施日：令和元年9月9日（月）
場　所：帝国ホテル大阪

② 2年次テーブルマナー研修

調理コースは料亭での会食時における礼儀や作法を和食マナー講習の実践から身につけ、食事を共にする相手へのおもてなしや配慮の心を養う。製菓コースはホテルでのテーブルマナーとデザートに特化した研修を実施した。

対　象：調理製菓学科2年次生
実施日：令和2年2月4日（火）
場　所：京都ホテルオークラ別邸　京料理　粟田山荘（調理コース）
　　：ホテル阪急インターナショナル（製菓コース）

③ 国内1泊研修旅行の実施

地域の風土や食文化に触れ体感することにより、知識と感性を身につけ、研修を通じての学科内でのコミュニケーション能力とチームワークを養う研修を実施した。

対　象：調理製菓学科　2年次生
実施日：令和元年6月7日（金）～6月8日（土）
場　所：伊勢志摩

④ ヨーロッパ研修旅行（食文化演習Ⅲ）（海外食文化演習）の実施（希望者）

ヨーロッパ圏での食文化や芸術を通し、現地の歴史、風土、芸術に触れその知識を得るとともにグローバルな視点で食を観察し具現化するスキルを身につけることを目的に実施した。

対　　象：大阪青山大学短期大学部　調理製菓学科　希望者
　　大阪青山大学健康科学部　健康栄養学科　希望者
実施期間：令和2年2月9日～2月18日　10日間
参加学生：24名　添乗教員2名　合計26名
場　　所：ローマ・アビニヨン・パリ

⑤ 学外実習・インターンシップの実施

就職活動を視野に入れた学外実習・インターンシップとする。本人の希望にそった料理・菓子のジャンルへの実習先を選択する。実習により、自分の進むべき道を決定するための大きな指標となり、社会での厳しさを実感し就職時の自分の立ち位置の確認、学生生活の中で今、自分がするべきことを認識することを目的

として実施した。

新型コロナウイルスの影響で製菓 4 名、調理 11 名が中止。夏季休暇中に実施予定である。

対　　象：調理製菓学科 1 年次生

実施期間：令和 2 年 2 月～3 月の期間（実質 12 日間）（製菓コース）

令和 2 年 2 月 10 日～3 月 22 日の期間（実質 8 日間）（調理コース）

(3) 資格関係

① フードスペシャリスト認定試験

食に関する幅広い知識を身につけ、食に関する他分野での活躍にいかすための資格取得を目指す。

フードスペシャリストは受験を選択制としている。実施予定で有ったが希望者は無く、中止した。

対　象：調理製菓学科 2 年次生

実施日：令和元年 12 月 15 日（日）*希望者は無く中止

(4) カリキュラム

① 日本の伝統と文化の科目を重視（茶道、華道、書道、陶芸）

専門職として習得し、将来的にも役に立つ科目として、茶道、華道、書道、陶芸を重視している。また、学生にも資格や将来に向けて役立つ授業を再認識させる。

② 基礎英語・話し方（プレゼンテーション）

就職後にも役立つ基礎英語・話し方（プレゼンテーション）を授業として実施している。

③「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」

本講義では接遇をテーマとして実施している。社会生活における基本マナーである立ち振る舞いや身だしなみ、言葉使いなどを身につけ、社会人として踏み出すための学生支援を実施している。

④ 卒業研究

学科の集大成である卒業研究は、2 年次生の必修科目として実施する。食に関するテーマに添って自発的・創造的に研究を進めることを目的とし、担当教員指導のもと作品展示と卒業研究発表会を実施し、卒業研究制作物（卒業研究レシピ集）を作成した。

(5) 学生生活

① イベント活動による学生生活充実度の拡充（希望者対象）

年間を通したイベントプロジェクト「OZ(オズ)」を実施した。イベントを通じて学生同士のコミュニケーションによる協調性、団結力を養った。

教員と学生のコミュニケーションをはかり、相互の信頼関係の構築を図った。本学での 2 年間の学生生活をより満足度の高いものとするとともに、愛校心を抱

き、卒業後も信頼関係が継続的に保たれることを目的として各種イベントを実施した。、一部のイベントは希望者が少なく中止した。

ア　餅つき(1 月）希望者少なく中止

イ　ボーリング大会（5 月）新入生歓迎会

ウ　アウトドアクッキング（9 月）希望者少なく中止

エ　体育大会（12 月）

※材料費等は実費徴収。

② 特別時間による学修フォローアップ実施

ア　基礎学力の定着化（学習支援室との連携）

イ　面談（学生動向、相談　他）

ウ　個人に合わせた目標設定とその見直し

エ　指導（ノート作成・技術習得・卒業研究）

オ　定期試験対策

カ　各種資格試験対策

キ　就職活動指導（進路支援課との連携）

ク　学生生活における不安の早期発見とその解消

ケ　計画的な履修指導と学生便覧の理解

コ　アンケート

③ 技術習得不足の学生に対するフォローアップ

卒業まで技術習得達成目標に到達しない可能性のある学生に対しては、実習室の空いている時間帯や長期休業期間中を利用し、徹底指導するなどの方策を駆使し、学生全員が基準レベルまで技術水準が到達するよう指導した。

④ 就職支援

進路支援センターと教員がさらなる協力体制を強化し、全員が就職できるよう就職活動を支援する。月 1 回、就職課と情報共有を実施した。

(6) 退学者抑止策

① 入学前オリエンテーション・懇親会実施

入学前オリエンテーション時に懇親会をレストランで行い、新入生及び先輩との親睦を図る。また、各コーナーで相談や先輩の声、知りたい事など先輩とのコミュニケーションの場を作る。

アルバイトが主になり遅刻や欠席につながるため、注意喚起を行う。

② 情報の共有

出席回数・取得単位の不足・経済問題など担任及び学科全体、各担当部署と連絡を密にとり情報を共有することで問題のある学生を早期に発見し、早期に働きかけることで退学、除籍防止を最小限にとどめるよう努めた。

③ 欠席回数の把握

各科目担当教員宛に欠席連絡があり、担任教員が把握出来ないケースもあるため、3 回以上の欠席者については、必ず担当教員に連絡するようルール化した。

④ カウンセラーの活用

精神的な不安や障害などを抱えている学生に対してはカウンセラーを活用するなど適切な対応を行った。

⑤ 保護者との連携

3回以上の欠席者に対しては保護者へ連絡を学科より行った。

成績不振や留年の可能性が有る学生の保護者への連絡や面談を行い早期対応するよう努めた。

⑥ 授業運営

多くの必修授業は2限目以降に行うようできる限り配慮した。

⑦ 学生に対する相談環境の整備

教員などに相談しやすい環境づくり（早期発見）を心掛けた。

⑧ やる気を啓発し、魅力ある授業の実施

学生の入学時からのモチベーションの確保に向けて、授業を工夫した。

(7) その他

① 保護者懇談会の実施

教育後援会総会の実施に併せて保護者懇談会を実施した。学生の学修状況及び就職説明会を懇談会で説明した。

② 調理・製菓コンテスト参加の啓蒙

各種コンテストへの参加を学生に促し、入賞を目指した取り組みからチャレンジ精神の形成と創造性に富んだ思考を養うことを図っている。

希望する学生に対しては授業時間外を利用して技術指導を行った。本年度は調理コース・製菓コースともにコンテスト参加希望者は無かった。

③ 地域活動活性化

地域活動支援室との協力体制を強化し、包括協定を締結している箕面市・池田市・川西市を中心とした活動の活性化を図り、地域に根差した大学としての認知度を上げることを目指した。

地域連携課と連携して公開授業を実施した。

④ 園児食育活動の推進

食育活動の一環として平野幼稚園年長児を対象とした「西洋料理マナー講習」を実施。園児に料理を食べる際のルールを伝えることと共に活動に参加した学生にとって食育教育の在り方についての一考察となることを期待している。

新型コロナウイルスの影響で中止。

⑤ 既卒者とのネットワーク形成

SNS などを通じて既卒者の現況を把握する。ネットワークを形成し、既卒者の支援を行う。また、既卒者の活躍を外部発信することによりコースの活性化に繋げる。既卒者の情報をもとに在校生に対して安心して斡旋できる就職先のリスト作成を行った。

⑥ 既卒者へのフォローアップウィーク設定（ホームカミングデイ）

既卒者が今更、現場で聞けない技術や知識またはそれぞれの職場での悩みに対してフォローアップを行った。随時対応は行うが既卒者ホームカミングウィーク

を設定し、既卒者の迎え入れを行った。（令和元年 7 月 30 日から 8 月 1 日実施）
卒業後の支援や情報交換・再就職支援なども行い情報を共有した。

2　調理コース

(1) 学外研修・集中講義関係

① 製菓製パン実習集中講義

調理コースの学生が、製菓コース所属教員による専門的な製菓・製パンの授業受講することができるよう集中講義として実施。製パン 3 回、洋菓子 2 回、計 5 回を実施した。

対　　象：調理製菓学科　調理コース　１年次生　希望者

実施期間：令和 2 年 2 月 3 日（月）～2 月 7 日（金）

(2) 調理技術クラス・カフェ調理クラス

① 調理技術クラス・カフェ調理クラスの明確化

特にカフェ調理クラスにおいてカフェスタイルを意識したメニューを増やし、ワンプレートランチなどでのバリエーションを加え、調理技術クラスとの差別化をはかり、学生個人においての将来像を描きやすいものとした。

「調理技術クラス」

技術習得の徹底はもとより、各食材の下処理から料理を仕上げるまでをこなすことができ、豊富な調理知識を養った人材を育成する授業内容を実施した。

「カフェ調理クラス」

基本的な調理法をしっかりと理解・習得したうえで、社会の食の流行を捉え、料理のジャンルにとらわれることなく、バリエーション豊かな料理の創出ができる人材を育成する授業やメニュー構成で実施した。

(3) 資格関係

① 大阪府ふぐ処理登録者講習　資格試験

大阪府ふぐ処理登録証の資格取得を目指し、学内での事前講習の徹底。調コース設立以来の合格率 100％を維持した。

対　象：調理製菓学科　調理コース　2 年次生

実施日：令和元年 11 月 14 日（木）

② 技術考査資格試験

6 年以上の実務経験を得たうえで専門調理師を目指す際に筆記試験免除となるための資格取得のために試験対策を実施した。

対　象：調理製菓学科　調理コース　2 年次生

実施日：令和 2 年 1 月 23 日（全国一斉）

合格者：受験者 24 名　合格者 20 名

(4) 学生生活

① 在学生保護者のレストラン解放実施

保護者へのレストラン予約受付を告知し、ランチを体験していただくことにより、学生が実習に対して真剣に取り組む姿勢と成長していく姿を実感してもらう。

また、保護者が試食に来訪されることにより学生が料理に想いを込めて作りあげる気持ちを学ぶ。また教員と保護者とのコミュニケーションの場とすることも目的としている。

② 在学生保護者レストランご招待（兼保護者会）

実施日：令和元年 12 月 18 日・19 日　実施

保護者への感謝の気持ちを込めて、レストラン最終営業日（自作メニュー）に招待状を送り、保護者に参加いただき 2 年間の学びの成果と成長をお披露目する。また、進路決定後の相談や卒業後も学校が全面的にバックアップすることをお話しする保護者会を兼ねたイベントとなった。

3　製菓コース

(1) 資格関係

① 製菓衛生師国家試験受験

在学中に製菓衛生師免許の取得を支援する。

・製菓衛生師国家試験対策の実施

製菓コース 2 年次生全員が、在学中に製菓衛生師免許の取得を目指し、国家試験対策を各科目について実施する。国家試験対策としては講義と模擬試験を実施し、受験者全員の合格を目指している。また、三重県での試験に不合格となった学生には、再度他府県で受験が出来るよう支援をする取り組みを実施した。

受験者：2 年次生　全員（製菓衛生師養成課程履修した者）

実施日：令和元年 12 月 1 日（日）実施

場　所：三重県

合格者：受験者 21 名　合格者 17 名

(2) 大量調理と販売

製菓、製パンの基礎知識を生かした専門的な実習として、2 年次生から学内販売と大量調理を実施する。グループに分かれて学内で試作研究し大量販売を行う。内容はメニューの考案から大量調理の仕込み、そして、原価計算、ラッピング、販売サービスまでを実際の店舗販売のように模擬授業を行った。

① パン、焼き菓子の販売

実 施 日：前期

場　　所：製菓実習前

実施回数：3 回

② 洋菓子の販売

実施日：後期

場　所：青山レストラン

実施回数：3 回

(3) 製菓実習室の整備

経年の劣化による冷蔵庫等の機器、備品、器具等で実習に支障を来すものは必要に応じ整備した。

v　附置・附属機関

1　大阪青山歴史文学博物館

令和元年度は秋季に「所蔵品展」を開催した。その他、所蔵資料（原本、写真・画像）の貸出、当館を会場とする研修会や見学会、講座、更に職員（主任学芸員）の出張講座等の催しも開催した。

(1) 展覧会の実施

○秋季所蔵品展『天皇の書－宸翰－』

（令和元年 11 月 1 日～11 月 30 日）　開館 22 日　入館者 426 名

(2) 資料貸出

【原本】

○『明智光秀書状　小畠左馬進宛（天正 3 年 8 月 21 日付)』、『明智光秀書状　小畠左馬進宛（天正 3 年 9 月 16 日付)』、『明智光秀書状　和田弥十郎宛（天正 7 年 4 月 4 日付)』、『明智光秀書状　彦介等宛（天正 7 年 5 月 6 日付)』

申請者　福知山市長　大橋一夫氏

申請日　令和元年 8 月 8 日

目　的　福知山光秀ミュージアム特別展（令和 2 年 1 月 11 日～2 月 20 日）に出品のため

○『織田氏八将連署書状　根来寺御在陣衆宛（天正 2 年 10 月 20 日付)』

申請者　亀岡市文化資料館館長　鵜飼均氏

申請日　令和元年 10 月 15 日

目　的　亀岡市文化資料館　第 34 回特別展「明智光秀と戦国丹波－丹波進攻前夜－」（令和 2 年 1 月 25 日～3 月 8 日）に出品のため

○『斎藤道三書状　佐々隼人佐宛（天文 21 年頃 4 月 7 日付)』、『明智光秀書状　小畠左馬進宛（天正 3 年 9 月 16 日付)』、『佐久間信盛等連署状　根来寺在陣衆中宛（天正 2 年 10 月 20 日付)』、『明智光秀書状　小畠左馬進宛（天正 3 年 8 月 21 日付)』、『明智光秀書状　越前守宛（天正 6 年 3 月 16 日付)』、『明智光秀書状　和田弥十郎宛（天正 7 年 4 月 4 日付)』、『明智光秀書状　彦介等宛（天正 7 年 5 月 6 日付)』

申請者　大阪歴史博物館館長　栄原永遠男氏、岐阜市歴史博物館館長　大塚清史氏、ＮＨＫ事業センターセンター長　福山浩一郎氏、株式会社ＮＨＫプロモー

ション取締役展博事業本部長　浜野伸二氏
申請日　令和２年１月 14 日
目　的　ＮＨＫ大河ドラマ特別展「麒麟がくる」（大阪展／令和２年４月 25 日～6 月 14 日　大阪歴史博物館、岐阜展／令和２年９月 18 日～11 月３日　岐阜市歴史博物館）に出品のため

【写真・画像資料】

○『後水尾天皇像』
申請者　日本経済新聞社大阪本社
申請日　令和元年５月 10 日
目　的　日曜版連載記事「美の粋」（令和元年５月 26 日付）に使用のため

○『役行者絵巻』
申請者　有限会社トークパブリシティ
申請日　令和元年７月 10 日
目　的　宗教法人真如苑発行誌『歓喜世界』259 号に使用のため

○『山海相生物語』、『あわびの大将物語』
申請者　穆雪梅氏（長崎大学大学院生）
申請日　令和元年８月 15 日
目　的　博士論文「お伽草子における異類物の文学的意義―動物物を中心に－」に使用のため

○『土左日記』
申請者　教育出版株式会社
申請日　令和元年 12 月９日
目　的　令和２年度版小学校社会指導者用デジタル教科書６年に使用のため

○『土佐日記』
申請者　サイバー・ネット・コミュニケーションズ株式会社
申請日　令和２年１月９日
目　的　高等学校国語科用教科書『精選言語文化』に使用のため

○『土左日記』
申請者　東京書籍株式会社
申請日　令和２年１月 20 日
目　的　高等学校国語科教科書『精選言語文化』に使用のため

○『土左日記』
申請者　数研出版株式会社
申請日　令和２年１月 22 日
目　的　高等学校国語科教科書『言語文化』・『高等学校　言語文化』に使用のため

○『明智光秀書状　小畠左馬進宛（天正３年８月 21 日付）』、『明智光秀書状　小畠左馬進宛（天正３年９月 16 日付）』、『明智光秀書状　彦介等宛（天正７年５月６日付）』、『明智光秀書状　越前守宛（天正６年３月 16 日付）』
申請者　南丹市立博物館館長　井尻智道氏
申請日　令和２年３月１日

目　的　郷土の資料として紹介・展示するための複製製作に使用するため

(3) 資料（原本）閲覧

○『伊勢物語絵詞巻』、『源氏物語　胡蝶』、『伊勢物語』、『順徳院御製名所和歌二十首』、『奈良絵本「徒然草」貼交屏風』、『柿本人麿像』、『夜寝覚抜書』、『白描源氏物語絵巻』、『源氏物語絵巻』、『源氏物語画帖』

申請者　後藤健一郎氏（和泉市久保惣記念美術館　学芸員）

閲覧者　河田昌之氏（和泉市久保惣記念美術館館長）、後藤健一郎氏、知念理氏（大阪市立美術館主任学芸員）

申請日　平成 31 年 4 月 26 日

目　的　和泉市久保惣記念美術館・大阪市立美術館展覧会開催にあたっての事前調査のため

○『明智光秀書状　小畠左馬進宛（天正 3 年 8 月 21 日付）』、『明智光秀書状　小畠左馬進宛（天正 3 年 9 月 16 日付）』、『明智光秀書状　彦介等宛（天正 7 年 5 月 6 日付）』、『明智光秀書状　和田弥十郎宛（天正 7 年 4 月 4 日付）』『斎藤道三書状　佐々隼人佐宛（天文 21 年頃 4 月 7 付）』

申請者　大阪歴史博物館館長　栄原永遠男氏

閲覧者　豆谷浩之氏（大阪歴史博物館学芸員）

申請日　令和元年 5 月 7 日

目　的　大阪歴史博物館・岐阜市歴史博物館展覧会開催にあたっての事前調査

○『明智光秀書状　小畠左馬進宛（天正 3 年 8 月 21 日付）』、『明智光秀書状　小畠左馬進宛（天正 3 年 9 月 16 日付）』、『明智光秀書状　彦介等宛（天正 7 年 5 月 6 日付）』『織田信長朱印状写　小畠左馬進宛（天正 3 年 6 月 7 日付）』、『織田信長朱印状写　小畠左馬進宛（天正 3 年 6 月 10 日付）』、『織田信長朱印状写　小畠助太夫宛（天正 3 年 6 月 10 日付）』、『明智光秀添状写　小畠左馬進宛（天正 3 年 6 月 19 日付）』、『明智光秀書状　和田弥十郎宛（天正 7 年 4 月 4 日付）』、『織田氏八将連署書状　根来寺御在陣衆宛（天正 2 年 10 月 20 日付）』、『明智光秀書状　越前守宛（天正 6 年 3 月 16 日付）』

申請者　亀岡市文化資料館館長　鵜飼均氏

閲覧者　大欠哲氏、飛鳥井拓氏（以上 2 名　同館学芸員）、出水伯明氏（映像工房出水）

申請日　令和元年 8 月 9 日

目　的　亀岡市文化資料館展覧会開催にあたっての事前調査

○『金沢称名寺紙背文書』、『金沢文庫本　往生講私記』、『金沢文庫本　万葉集　巻十三断簡』、『金沢文庫本　万葉集　巻十九断簡』

申請者　神奈川県立金沢文庫文庫長　湯山賢一氏

閲覧者　湯山賢一氏、三輪眞嗣氏（金沢文庫学芸員）

申請日　令和元年 8 月 20 日

目　的　金沢文庫展覧会開催にあたっての事前調査

○『多田満仲物語』、『奈良絵本　満仲』

申請者　恋田知子氏（国文学研究資料館准教授）
閲覧者　同氏
申請日　令和元年 9 月 10 日
目　的　研究のため
○『塩川文麟筆　百老仙図』、『塩川文麟筆　楼閣山水図』
申請者　近江八幡市長　小西理氏
閲覧者　山本順也氏（近江八幡市史編纂室）
申請日　令和元年 9 月 26 日
目　的　『近江八幡の歴史』第 9 巻（地域文化財編）に執筆のため
○『鶏鼠物語』
申請者　津田卓子氏（名古屋市博物館学芸員）
閲覧者　同上
申請日　令和元年 11 月 20 日
目　的　名古屋市博物館所蔵『鶏鼠物語貼付屏風』との比較研究のため

(4) 研修・見学会　（　）は参加人数

平成 31 年 4 月 5 日　新入生オリエンテーション　北摂キャンパス見学（118 名）
令和元年 6 月 22 日　のせでんハイク参加者限定見学会（「ふるさと北摂」展）（239 名）
令和元年 6 月 27 日　本学地域連携講座「ふるさと北摂　見学と展示解説」（28 名）
令和元年 6 月 29 日　かんさい・大学ミュージアム連携講座「大学ミュージアムで学ぶ歴史と文化」受講生（12 名）
令和元年 7 月 5 日　本学健康栄養学科 1 年次「伝統文化に学ぶ」授業（80 名）
令和元年 8 月 4 日　本学地域連携講座　小学生夏休み自由研究「美術品に親しむ」（30 名）
令和元年 11 月 14 日　本学地域連携講座「天皇の書－宸翰－　見学と展示解説」（12 名）
令和元年 11 月 21 日　大和自治会見学会（40 名）
令和元年 12 月 12 日　川西市けやき坂公民館　歴史文学講座受講者（10 名）
令和元年 12 月 21 日　本学子ども教育学科 1 年次「伝統文化に学ぶ」授業（66 名）
令和 2 年 2 月 22 日　東谷コミュニティー講座「百人一首とカルタ会」講座（48 名）

(5) 学園（博物館）主催講座、展示解説　（　）は参加人数

令和元年 11 月 6 日　秋季所蔵品展『天皇の書－宸翰－』展示解説（12 名）
令和元年 11 月 20 日　秋季所蔵品展『天皇の書－宸翰－』展示解説（19 名）

(6) 学芸員出張講座

令和元年 12 月 5 日　川西市けやき坂公民館　歴史文学講座『天皇の書―宸翰－帝王の書の魅力』

(7) その他の活動・催し　（　）は参加人数

平成 31 年 4 月 12 日　平野幼稚園総会（105 名）
令和元年 11 月 1 日～30 日　かんさい・ミュージアムネットワーク スタンプラリー参加
令和元年 11 月 16 日～17 日　北大阪ミュージアムメッセ　ブース参加（国立民族学博物館）
令和元年 11 月 17 日　「関西文化の日」に参加（69 名）

2　図書館（3 号館図書室・4 号館メディアセンター）

(1) 利用サービスの充実

① 学生選書の一部導入

平成 30 年度から資料選定に学生を参加させる計画であったが、残念ながら 30 年度は選書ツアー実施当日に台風に見舞われ中止せざるを得なくなった。その為、今年度は予備日を設け日程変更にも備えた。結果、予定通り実施することが出来た。各学科の希望学生を引率して書店に出向き、読みたい本を選書し購入するとともに、学生との対話を通じて各学科の図書館利用のニーズ等を図書館職員が把握する機会を得ることが出来た。

② ガイダンス

今年度も、図書館の利用方法、オンライン目録（OPAC）の使い方、論文検索の方法などの説明会を開催することで、利用者がスムーズに図書館機能を使いこなせるようにした。平成 28 年度以降は新入生に対し、継続して学生参加型のガイダンスを行ってきたが、今年度も好評を得た。

③ 図書館だよりの発行

平成 24 年度より月 1 回発行しており、学内の図書館ホームページでも創刊号から最新号まで見られるようにしている。本誌に対する問い合わせもあることから、昨年同様、内容に多様性を持たせ、さらに利便性の高い誌面づくりに努めた。

④ 学内ホームページ

平成 28 年 2 月から新たに公開しているホームページを、より一層充実した内容にした。最新情報の発信や、資料検索に役立つコンテンツの作成・改善を積極的に行い、利便性の向上に努めた。

⑤ 学術機関リポジトリの公開

『大阪青山大学紀要』は最新刊の 11 巻まで、また看護学ジャーナルも最新巻まで公開しており、今年度は短期大学部紀要 39 号のオンラインでの公開も開始した。また、リポジトリ運用指針の改訂も行った。

⑥ データベース『メディカルオンライン』説明会

多用されているデータベース『メディカルオンライン』の使い方説明会を初心者から研究者までを対象にして今年度より新たに計画し、2 月に実施した。教員の学術研究や学生の卒業研究の促進に役立てるよう努めた。

⑦ 学科、他部署との連携

各学科の資料の選定・購入を図書館が行っているので、図書委員会を開催し、需要の少ない雑誌・データベース等の見直しを行った。

また、就職・進学するにあたっての予備知識、社会の一般常識、マナーの構築等に役立つ資料を充実させ利用の向上に努めた。

⑧ 図書館の学外者の利用

公開講座に出席された一般の方の図書館への入館を認め、サービス開始周知のための広報、入館証の作成等を行った。

④　メディアセンターＡＶ機器の点検・入れ替え

メディアセンターのＡＶ機器は開館当初から利用しており、経年と共に劣化が

進み、不具合が頻発していたので入れ替えを行った。

⑤　メディアセンター雑誌架のレイアウト変更

メディアセンターに所蔵している雑誌の種類増加に伴い、雑誌架のレイアウトを変更し、利用者の利便性向上に努めた。

(2) 資料の管理

① 蔵書の構築

図書館では、貸出・閲覧ランキング、レファレンス記録などを参考にしながら必要な資料を把握し、図書委員会において適宜選書、購入している。また、学生の学習に適した図書を充実させるため､学生自らによる購入のリクエストおよび、教員個人や学科からのリクエストも随時受け付け、教育・研究活動支援のため資料を選定し、蔵書を構築した。

② 蔵書点検及び整備

定期的に行っている蔵書点検を今年度も実施し、資産管理に努めた。

③ 紀要の整理

ネット上で閲覧可能かどうかを随時調査し、閲覧可能なものについては冊子体受入辞退の連絡を行い、配架スペースの確保に努めた。

(3) 令和元年度図書館利用状況

2019年度　図書館(図書室･メディアセンター)利用状況								
		入館者数（人）			資料貸出（月別）			
		2019年度月別合計	2019年度1日平均	2018年度1日平均	冊数		人数	
					2019年度	2018年度	2019年度	2018年度
4月	図書室	1433	60	58	246	299	133	157
	メディアセンター	1250	53	57	131	210	59	120
5月	図書室	1265	55	65	208	179	124	114
	メディアセンター	1063	47	72	118	200	65	131
6月	図書室	1469	59	62	255	179	146	114
	メディアセンター	1347	54	61	70	200	51	131
7月	図書室	1774	66	75	254	196	159	117
	メディアセンター	2073	77	90	134	167	71	111
8月	図書室	567	36	21	93	77	39	40
	メディアセンター	586	37	32	41	43	23	24
9月	図書室	941	38	36	267	172	139	85
	メディアセンター	553	23	29	34	50	25	29
10月	図書室	1271	53	63	253	327	122	194
	メディアセンター	1015	43	69	92	196	59	124
11月	図書室	1456	56	66	315	378	173	208
	メディアセンター	1327	52	83	92	172	63	109
12月	図書室	1082	52	52	163	160	89	91
	メディアセンター	1111	53	71	71	124	48	78
1月	図書室	1211	61	57	280	284	122	125
	メディアセンター	1671	84	106	240	213	110	103
2月	図書室	198	20	31	56	144	16	55
	メディアセンター	423	27	27	31	28	19	15
3月	図書室	479	22	31	33	118	14	47
	メディアセンター	354	22	23	30	33	20	13
年間	図書室	13,146	48	51	2,423	2,513	1,276	1,347
	メディアセンター	12,773	48	60	1,084	1,636	613	988

3　体育館

(1) フィットネスクラブ

・会員数　　65 歳以上会員　234 人（85%）一般会員 40 人（15%）　　計 259 人

・利用平均　１日　81 人、　　１カ月　1,907 人

現在、入会待ちはない。定員枠は昨年度と同じく正会員 180 名、午後会員 130 名の 310 名であるが、会員数は 28 名減少している。年間利用者数は昨年度に比べて 3,130 名減の 22,891 名である。新型コロナウイルス対策で令和 2 年 3 月、1 か月間利用中止したことによる利用者減員と会員数減少が主な要因である。

フィットネス利用状況（人数）

	一般会員	65 歳以上会員	計
4 月	286	1,814	2,100
5 月	308	1,916	2,224
6 月	321	1,901	2,222
7 月	341	1,974	2,315
8 月	260	1,564	1,824
9 月	301	1,874	2,175
10 月	287	1,949	2,236
11 月	267	1,819	2,086
12 月	207	1,509	1,716
1 月	204	1,707	1,911
2 月	237	1,798	2,035
3 月	5	42	47
合　計	3,024	19,867	22,891

(2) テニスクラブ

クラブ会員数 49 人、スクール会員数 4 人、クラブ制スクール会員数 4 人

テニスコート利用状況　（人数）

	自治会	スクール	クラブ	計
4 月	30	19	521	570
5 月	23	30	448	501
6 月	16	25	464	505
7 月	15	26	463	504
8 月	36	0	361	397
9 月	30	31	492	553
10 月	21	32	468	521
11 月	28	31	535	594
12 月	16	27	461	504
1 月	25	20	435	480

2 月	30	28	503	561
3 月	0	0	29	29
合　計	270	269	5,180	5,719

(3) 体育館施設利用状況

平野幼稚園生活発表会などの利用があった他、新たに箕面学園高校バレーボール部などの利用を含め 5,215 人の利用者数があった。

〔利用内容〕

アリーナ: バレーボール・バスケットボール・卓球・剣道・フォークダンス

講 義 室：会合、英会話　　和室：自彊術・ピラティス等

体育館施設利用状況　（人数）

	アリーナ	講義室	和室	計
4 月	400	85	92	557
5 月	370	40	92	502
6 月	320	40	94	454
7 月	330	40	94	464
8 月	370	40	92	502
9 月	360	40	112	512
10 月	365	40	136	541
11 月	255	40	119	414
12 月	205	20	125	350
1 月	295	40	122	457
2 月	305	40	117	462
2 月	0	0	0	0
合　計	3,580	445	1,195	5,220

学生（ソフトボール部以外のクラブ活動含）及び大学関係者による体育館施設利用状況（人数）

	アリーナ	講義室	和室	テニス	計
4 月					
5 月				4	4
6 月				6	6
7 月					
8 月					
9 月					
10 月					
11 月	350				350
12 月	640	480	480	8	1,608
1 月	12				12
2 月				4	4

3 月					
合　計	1,002	480	480	22	1,984

(4) 収入状況　(単位:円)

	アリーナ・講義室・和室	フィットネス	テニス	計
4 月	49,880	938,996	830,600	1,819,476
5 月	53,340	926,781	390,400	1,370,521
6 月	130,470	936,774	360,200	1,427,444
7 月	300,072	914,313	48,600	1,262,985
8 月	96,365	908,646	215,800	1,220,811
9 月	212,390	910,843	291,600	1,414,833
10 月	148,065	891,536	23,600	1,063,201
11 月	183,292	878,497	437,400	1,499,189
12 月	154,172	894,579	108,600	1,157,351
1 月	114,430	852,183	48,600	1,015,213
2 月	126,535	859,184	15,000	1,000,719
3 月	172,232	846,711	291,600	1,310,543
合　計	1,741,243	10,759,043	3,062,000	15,562,286

(5) 主な行事・活動

平成 31 年 4 月 5 日（金）　新入生見学会　調理製菓学科、看護学科
平成 31 年 4 月 9 日（火）　前期授業開始　子ども教育学科
平成 31 年 4 月 12 日（金）　〃　健康栄養学科
平成 31 年 4 月 29 日（月）～5 月 4 日（土）　女子ソフトボール部　北摂学舎合宿
令和元年 6 月 22 日（土）　朝日・おおさか南北ウォーク
令和元年 8 月 6 日（火）～11 日（日）　女子ソフトボール部　北摂学舎合宿
令和元年 12 月 8 日（土）　生活発表会　平野幼稚園
令和元年 12 月 8 日（土）～9 日（日）　女子ソフトボール部「第 22 回中学生・高校生ソフト研修会」
令和 2 年 3 月 3 日（火）～3 月 31 日（火）　新型コロナウイルス対策のため、フィットネス・テニスコート・アリーナ等の利用中止

(6) 地域貢献

地域への社会貢献活動として次の活動を行った。

・大和自治会にテニスコート開放
・朝日・おおさか南北ウォーク(能勢電)への協力　6 月 22 日（土)再掲

4　共通教育センター

(1) 令和元年度の会議開催と事業の進捗状況について

本センター設置の趣旨「全学的な教育施策の企画立案ならびにカリキュラム開発などを担当する」に基づき、本学ならではの教養教育ならびに各学科の特色を生かした、実効性のあるリメディアル教育・初年次教育の充実を図るべく委員会を開催し、その都度、各科目担当教員より学生の学修態度や学びの状況などを相互に報告しあった。また、全学的な動向について大学運営会議の内容を報告し、センター所属教員相互の情報共有を促すとともに、全学的に共通する教育プログラムの質的評価と新たなプログラムの可能性について意見を交換した。なお、委員会の開催状況は下記のとおりである。

開催日時	主な内容
令和元年5月7日(火) 11：00～11：45	昨年度の活動に関する総括、今年度の活動方針についての討議、学内動向共有についての意見交換、学生の学修状況についての意見交換.
令和元年6月11日(火) 9：30～10：30	学内動向の共有、今年度の活動内容についての意見交換、学習支援室からの報告.
令和元年7月23日(火) 9：30～10：30	学内動向の共有（学生自治組織と学長との懇談会内容、大学運営会議の審議内容、危機管理委員会の審議内容　など）、学生の学修状況についての意見交換.
令和元年9月18日(水) 10：00～11：00	学内動向の共有（FD講演会開催内容、オープンキャンパス実施状況、大学運営会議の審議内容、危機管理委員会の審議内容　など）、私立大学等改革総合支援事業についての資料配布、学生の学修状況についての意見交換.
令和元年11月25日（月） 13：00分～14：30	学内動向の共有（大学運営会議の審議内容、推薦入試までの志願状況、ガンバ大阪連携学生プロジェクト内容　など）、今後当センターが取り組むべき学生支援についての討議（学長依頼事項）.
令和2年1月20日(月) 13：00分～14：00	学内動向の共有（教授会の内容、一般入試Ａまでの志願状況　など）、新年度事業計画と予算申請についての審議、今後当センターが取り組むべき学生支援についての討議（学長依頼事項、前回からの継続）、学生の学修状況についての意見交換.
令和2年2月27日(月) 15：30～16：30	学内動向の共有(教授会の内容、新型コロナウイルス対応状況　など)、新年度事業計画と予算申請についての審議、新年度の取り組みに関する意見交換、今年度の総括.

(2) 令和元年度総括

共通教育センターの令和元年度の活動について、次の通り総括する。

教養教育については、新規科目の開発には至らなかったが、小倉教授担当の「伝統文化の世界」（学科によっては科目名「伝統文化に学ぶ」）の教育効果について検証し、学科によって違いはあるが、導入時に本学の成り立ちや沿革に触れる形を

とってから学生の興味・関心を引けるような手ごたえが出てきており、今後も意欲的に展開したい旨の報告が同教授からなされ、センター会議としてもその効果をはっきりと確認することができたところである。

リメディアル教育については、学科との連携が充分にとれるところまで至らなかった。また、初年次教育については学科横断的な科目を設置して行うことにほぼメンバーすべての同意を得た。

入学前教育については大学の方針として、その仕組みを変えたいとの議論があり、紙ベースの通信型課題は廃止し、受益者負担による業者提供プログラムを導入（H 科、N 科）、「アオドリ」についても入学前の部分は廃止し、入学後のコースのみ展開することとなった。入学前教育は、今後は各学科の教育への準備教育的な性格をもち、その内容も学科の主体性によって決定、実行する形となり、本センターの管轄からは外れることとなった。

一方、全学共通科目としてセンター長が「サービスラーニング」の設置を提案し、教務委員会に上程したが、審議未了となり次年度に審議を継続することとなった。また、今年度は学長からの要請を受け、「共通教育センターとして取り組む今後の学生支援」をテーマに意見交換をおこない、一定の方向性について合意を形成しつつ議論をすすめた。

何度かの議論を経て、1 月、2 月の会議においては次のような今後の課題が確認された。5 つの観点から記述する。

① 教養教育の観点から

興味の対象が狭い。

幼少期から文化資源に触れてきた機会が少ない。

映画や伝統芸能への関心も薄い。

② 基礎的リテラシー（読解、IT）、認知の観点から

読解力不足が目立つ。

図形の正しい認識ができない学生がいる。

一筆書きができない、日付変更線を理解できない学生もいる。

基礎リテラシーを向上させる学修プログラムを開発すべきである。

③ 各分野の担当教員から

・日本語…読解力の強化が必要。
　　インタビューの演習で自分のことばかり話してしまう学生がいる。

・英　語…再履修者を 1 年次生と一緒に受講させることのデメリットがある。
　　単位が取れればいいという意識しかない学生も再履修者には多い。
　　民間の検定などの結果を入試あるいは単位認定に活用すべきである。

・情　報…パソコンを使えない学生が散見される。

・体　育…もっと体を動かしたいという学生の声がある。
　　種目体育の授業を単位化（集中講義も含めて）すべきではないか。

④ マナー、礼節の観点から

常識を知らない学生が多い．それを教える授業が必要である。

立ち居振る舞いに問題のある学生もいる。

⑤ その他

図書館の利用者が少ない．メディアセンターと二分している必要性はないのではないか。

専門学校との違いを明確にし、本学が目指す方向を明確にすべきである。

教養の学びによって幅広い人間観を培う必要がある。

かつての短期大学の「一般教養アワー」のような設定も良いのではないか。

4 年次生の履修科目が少なすぎるのではないか。実習時期をずらすこともできるであろうし、本センターがそこに貢献できることもあるのではないか。

およそこれらの課題意識を念頭に、事業計画書案に示した施策の 3 点（教養教育の内容の充実・汎用的技能開発の教育に関する調査研究・その他全学的に共通する教育に関する議論）についてバランスよく進めていくことを次年度の目標とする。

なお、令和 2 年度には新センター長のもとで本センターの活動推進が図られるところであるが、年度当初からの臨時休校、5 月からの遠隔授業実施など緊急事態への対応が大学全体として迫られている。この状況を踏まえ、共通教育センターとして刻々と変化する大学および学生を取り巻く環境に応じた対応をとっていくことが肝要である。

5　情報教育センター

(1) 情報教育センターの業務と本年度事業の特色

「情報教育センター」は、学内情報化推進と情報システムの適正な運用を図るための実務を担当し、実施している。主要な業務は以下の通りである。

① 利用者管理
② 施設管理
③ 教育研究支援
④ その他

令和元年度事業の特色は次の通りである。

① Windows7 から Windows10 へのバージョンアップ対応
② 新教務システム運用協力
③ 令和 2 年度新任教員パソコン整備

(2) 利用者管理

① 大学・短期大学の学生･教職員に対する利用者登録および利用者管理

平成 29 年度の新規登録者数は、大学学生 238 名（内編入生 5 名）、短期大学部学生 38 名、教職員 45 名であった。このほかに部局等の業務用利用者 2 ユーザーを登録した。

新入学生について､1 年次生には情報関連授業の第 1 回で利用者登録を行った。大学･短期大学ともに 1 年次生前期に情報関連授業を受講するカリキュラムとなっており、前期授業第 2 週までに利用者登録を終了し、授業および研究に支障が

ないように配慮している。一方、編入生に対しては授業での登録が困難なため、特別に時間を設けて対応した。

利用者登録の際には情報教育センター発行の「コンピュータ利用の手引」を共通テキストとして使用している。令和元年度は前年度に引きつづいて Windows10 環境版「コンピュータ利用の手引」第 7 版を配布した。

教職員に対しては、新任者研修にて情報教育センターからの時間を設けるとともに、随時、利用者登録を受け付け、教育および研究への情報施設･設備利用の便宜を図った。

② 科目等履修生などの利用者管理

科目等履修生などの利用者登録はなかった。科目等履修者に対してはその都度、必要に応じて利用者登録を行うこととしている。

(3) 施設管理

① ネットワークやコンピューター室等の情報施設･設備の維持･管理

年間を通してネットワークやコンピューター室などの施設･設備の維持･管理に当たった。このために、前年度と同様に株式会社三谷商事と保守契約を結んだが、保守契約費用節減のため、前期授業期間中は週 3 日、後期授業期間中は週 2 日の人員の派遣を受けた。

ア 学生利用パソコンおよび教職員の研究・業務用パソコンに対して

学生向けには、第 1 コンピューター室（211 教室）・第 2 コンピューター室（206 教室）・情報教育センター室（4-210 教室）・コンピューター自習室（202 教室）・学生談話室などのパソコン･プリンタの維持･管理を行った。このほかにも日々、学生利用時間後の整備を実施し、機器故障への対応を実施した。主なものとして、プリンタのインク交換、キーボード・マウスの故障交換、教員パソコン画面提示用の中間モニタの故障修理などである。

また、令和元年 8 月下旬・令和 2 年 2 月下旬の 2 回にわたりコンピューター室の学生用および教員用コンピューターすべてのハードディスク内容を再構築し、修正プログラムを適用してセキュリティの向上とソフトウェアの安定動作を図った。

教職員向けには、新規採用教員の研究室パソコンの整備を行うとともに、日々の求めに応じて、不具合対応、メンテナンス・修理等を行った。研究上の必要から各教員が私費で購入したパソコンを学内ネットワークに接続する際、情報教育センターでは、

・OS を最新の状態にすること
・本学で利用しているウィルス対策ソフトウェアおよびモニタリングソフトウェアをインストールすること

を条件として接続を許可しており、あわせて設定作業を行っている。近年、年間 20 台程度から増加の傾向にある。また、ネットワーク接続に eduroam を利用すれば、これらの設定も必要なく、インターネットを利用できる。あわせて特に教員利用のパソコン数は増加傾向にある。

本年度の特色として、Windows7 から Windows10 へのバージョンアップ対応があげられる。令和 2 年 1 月にサポート期限の切れる Windows7 をバージョンアップする作業は、当初、予算化を目指したものの認めらず、センター教員による手作業での対応となった。7→10 の移行そのものは 2 時間程度の作業であるが、教員用端末ではさらに Micorosoft Office のバージョンアップ、統計ソフトウェア SPSS のバージョンアップも合わせて行う必要があり、およそ半日程度を要する作業となる。このため、対応は遅々として進まなかった。令和元年 12 月中頃の時点で Windows7 端末は 145 台程度が残っていた。しかし、年度末の新任教員向けパソコン整備などを経て、令和 2 年 4 月中頃には Windows7 端末は 87 台と減少している。ウィルス対策ソフトウェアおよびファイアーウォールの運用強化によって安全性の確保に努めている。

イ ネットワークに対して

数年来、事業計画では仮想基盤システム全体とネットワークシステムの更新を計画している。本年度は、更新の準備年とし、昨年度導入したファイアーウォールの調整を行いつつ、令和 2 年度の仮想基盤システムのメーカー保守切れに備えることとした。

昨年導入したファイアーウォールは安定的に動作しているが、ファイアーウォールにコンテンツフィルタを統合した結果、WEB アクセスを担うプロキシサーバーに大きな負荷がかかるようになり、WEB アクセスが一時的に止まる現象が散見される。サーバーを強化する以外の方法はとりづらく、来年度の仮想基盤システムの更新を待つ状態である。

無線 LAN 接続については、現有の環境を安定的に運用することに努め、また国立情報学研究所(NII)が運用主体となった国際学術無線 LAN ローミング基盤「eduroam」の安定運用に努めた。特に学生が取得したアカウントを正確に入力できず接続できない事故が多発している。また、電波の弱い場所では認証に時間がかかることとあわせて接続に失敗する場合があることが報告されている

ウ セキュリティについて

コンピュータセキュリティを向上するための対策として、システム上の対策と、教育・啓発活動による対策を実施している。

システム上の対策としては、ウィルス対策ソフトウェアの導入、ファイアーウォールの設置、スパムメールフィルタや Web フィルタリングなどさまざまな対策を実施している。また、クラウドシステム Office365 上のセキュリティ対策も検討・調整を行っている。今後も、対策を強化していきたい。

また、教育・啓発活動としては授業を通じたセキュリティ教育、教職員向けの情報提供など啓発活動を行っている。学生対象の対策として、情報教育センター発行のテキスト「コンピュータ利用の手引」の中にセキュリティについて必要な事項を盛り込むと同時に、授業内でもセキュリティに関する事項が扱われるよう配慮している。教職員向けには、長期の休業などの前に、情報システムの管理、個人情報の管理などについて一層の注意を促す呼びかけを行った。学内だけでなく、学生・教職員の自宅でのセキュリティ・ウィルス対策の強化も引き続き呼び

かけていく。

② 情報サービスの運用・協力

平成 31 年度（令和元年度）導入の新教務システムの安定運用に協力した。新システムは AWS（Amazon Web Services）上にあり、学内からの安定的接続ができるようファイアーウォール等の調整を行うとともに、学生用パソコン上にリンクを表示し、ポータルサービスへの誘導を行っている。

また、図書館が担当している機関リポジトリの運用に協力した。

③ ソフトウェアの整備

Microsoft Office／WindowsOS の包括ライセンス契約を継続し、新規導入されるパソコンに対して Office 等の標準的な整備を行った。

年間レンタル契約で導入している統計ソフトウェアパッケージＳＰＳＳについては、卒業研究や教員の研究に活用されている。特に看護学科の利用者が大幅に増えているが、ライセンス数の増加が難しい状況である。新ファイアーウォールによる学外からの SSLVPN 接続によって、学外から SPSS 利用が可能となるよう、引き続き、システム上の調整を行っている。

(4) 教育･研究支援

① センター室の運用

授業期間中の月曜日～金曜日 12:30 から 16：30 まで、センター室を開室した。センター室では、学生のパソコン利用の他、質問の受付、各種手続きの対応、卒業研究指導のサポートなどの教育支援を行った。また、教職員からのパソコン利用相談や学会発表用のポスター印刷の相談などを受け、教育研究への支援活動を行った。大型プリンタは、卒業研究発表やオープンキャンパスなどの学内行事ポスターの作成、学会発表用ポスターの作製など、多方面に活用されている。平成 30 年度に故障したこの大型プリンタについては、令和元年度予算で 4 月当初に修理を行った。印刷の多い時期を乗り切ったが、令和 2 年 3 月に至り、再度、ヘッドの目詰まりが解消できない故障が発生している。

② 情報活用環境の整備

経費上の制約と専任職員不在の状態では、決して満足のいく対応ができているわけではない。その中で、以下のような対応の努力を行った。

・学内情報サービス

学内ホームページを運用した。各部署や図書館・メディアセンターのサービスへの入口としての機能を持つ。また、各部局や学科等のための共有ディスク領域を提供した。

・教職員パソコンの再配置・再整備

退職や配置転換によって使用者不在となったパソコンを再整備して必要箇所に配置した。また、部局・研究室等の配置換えや新機種購入に際しての各種の整備を行った。

・令和 2 年度新任教員のパソコン整備

本年度の特色の一つであるが、令和 2 年度着任の新任教員向けのパソコン

整備作業を情報教育センターで行った。総務部によって新任教員向けのパソコンを調達したが情報教育センターで、その利用開始前の整備を行った。一部は退職者のパソコンの再利用を充てた。結果として、これにより Windows10 への移行が進んだが、非常に困難な作業であった。

(5) 情報システム改善プロジェクト

平成 26 年度末より「情報システム改善プロジェクト」が設置され、学内多方面の人材を集め、「ＩＴ環境の変化に即応した情報教育環境を整え、学内外から情報を収集し活用できる環境の整備」に向けて対応策を検討し、整備を推進していくこととなった。ここでの議論により、仮想基盤およびネットワーク装置の更新を行うのが妥当とされた。

(6) 環境問題への対応

学内に設置されているレーザープリンタのトナーカートリッジを情報教育センターに集め、リサイクルを行った。なお、インクジェットプリンタのインクカートリッジのリサイクルは、学生支援センターで行われているリサイクルに協力する形で行った。

古くなったり故障したパソコン・プリンタ等の情報機器は、教職員個別に廃棄するのではなく、情報教育センターに集めて一括で廃棄することとしている。研究室で利用したパソコンなどには学生・共同研究者等の個人情報が残っていることがあるため、セキュリティ上、盲点になることもある。情報教育センターでしっかりと情報を消去したのち、資源としてリサイクルすることとしている。

(7) 令和 2 年度事業計画についての検討

以上の令和元年度事業報告結果と「情報システム改善プロジェクト」からの指示を踏まえ、以下を検討事項として令和 2 年度事業計画内容を策定した。

① 教育･研究支援の充実と学園内情報システムの維持･管理
② クラウド化への対応
③ ソフトウェアの整備
④ パフォーマンスとセキュリティの向上
⑤ 環境問題への取り組み
⑥ 新世代仮想基盤およびネットワークシステムの整備

6 学習支援室

【令和元年度実施事業の成果と課題】

(1) 学習支援室利用数

今年度は、利用者数の維持を目標に取り組んだ。当室利用者数は 3,740 名あり、年度当初の目標を達成した。

	平成 28 年度 (2016)	平成 29 年度 (2017)	平成 30 年度 (2018)	令和元年度 (2019)
室構成員 (専任教員＋職員)	12 名 (9＋3)	14 名 (11＋3)	13 名 (10＋3)	13 名 (10＋3)
課業中の開室曜日	週 5 日 (月～金)	週 5 日 (月～金)	週 5 日 (月～金)	週 5 日 (月～金)
開室日数	232 日	237 日	234 日	236 日
利用者人数	3,981 名 4 年制大学： 2,601 短期大学部： 1,034	5,054 名 4 年制大学： 3,340 短期大学部： 1,441	5,607 名 4 年制大学： 3,640 短期大学部： 1,667	3,740 名 4 年制大学： 2,347 短期大学部： 1,139
1 開室日あたりの人数	17.2 名	21.3 名	24.0 名	15.8 名

(2) 実施したプログラムの充実と拡大

下記に示すように、目標を達成した。

① 運営委員による学習支援室オフィスアワーの実施

運営委員による学習支援室でのオフィスアワーは昼休みの開催が中心となる。学生へ圧迫感がなく、さらに運営委員の負担を少なくするために平成 28 年度よりオフィスアワーの実施は原則として、各教員が隔週で行うこととした。

	平成 28 年度 (2016)	平成 29 年度 (2017)	平成 30 年度 (2018)	令和元年度 (2019)
開催回数	67 回	53 回	59 回	48 回
利用者数	45 人	24 人	27 人	67 人

② 学習支援アシスタント（SA）による支援の充実

後輩への学習支援、授業・講座補助、研修・委員会活動に加え、SA 自らが講座の企画・実施を多数行った。今年度は 53 名の SA を養成し、のべ 403 時間の支援を実施した。

さらに次年度の SA 育成についても、後期末に新 SA 研修を行うことで、卒業年次の SA からの指導や活動内容についてスムーズに伝達できた。SA 活動を継続する意志のある SA については研修等、3 月より活動を行った。

なお、委員会活動については計 5 回開催した。

③ 初年次教育の実践サポート

ア 初年次教育の実践サポート・ライティングセンターとしての機能強化

・複数の“青山コミュニティ”を開催するにあたり、各学科了解の元、学習支援室にて学習面・学生生活面における SA との相談会の場を設けた。

・室長が基礎教育科目「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」の授業を担当した。このことにより 1 年次生の学習の様子を運営委員会内で共有すると共に、1 年次生対象の講座への参加を広く呼びかけた。また、英語科教員が運営委員に加わったことで、基礎学力に不安を覚える学生への個別相談の場を持つことができた。

イ 学びの質の向上を図るための企画と運営

・“青山コミュニティ”により、先輩学生である SA が講座中に後輩の勉強の仕方や日頃の学習計画について相談・計画を指導する場面を提供した。数そのものは少ないが、昼休みに SA へ個別に学習の質問を行う学生も存在しており、在学生がニーズを持っていることが窺える。

・平成 30 年度に引き続き、教養ミニ講座“青山コミュニティ”「楽しく、気軽にトーク・トーク!!」を実施した。学科や学年に関係なくコミュニケーションを意図したものであり、昼休みの 30 分間に開催した。また室長の担当科目の一環として進路支援センターとのコラボレーションとしても用いられた。また、「日本語Ⅱ」の授業とのコラボレーションにおいては、アドバイザーとの面談に発展したケースもあった。

ウ 学生の教養の幅を広げるプログラムの充実

・4 名の卒業生（主に元 SA）を招き、講師として現在の仕事に就くまでの学びの過程について“青山コミュニティ”で講演を企画・実施した。

・また、SA の育成強化については、①毎月 30 分間の SA 委員会を継続し、SA として望ましい態度などの養成や、他学科との交流・意見交換を行い、自主的に活動ができるように促した。後期の教養ミニ講座については、新企画を含め SA が中心となって講座を企画・実施した。

・平成 30 年度に引き続き、SA 委員会では、SA が学科毎に教養ミニ講座を企画した。その結果 SA を中心とした “青山コミュニティ”を 18 講座開催した。また、本年度は学科教員である運営委員が SA の興味関心に応える形での国家試験対策講座の開催等、新たな試みも行った。

学習支援室運営委員による教養ミニ講座の開講に加え、学生のニーズを受け、基礎学力に関する個別指導講座の開講を継続している。

令和元年度 教養ミニ講座 開催数と参加者数

	平成 28 年度 (2016)	平成 29 年度 (2017)	平成 30 年度 (2018)	令和元年度 (2019)
開講講座数	18 講座	18 講座	19 講座	26 講座
参加者数	958 名（52 名）	1,077 名（49 名）	1,144 名（50 名）	1,030 名（126 名）

エ 発達障がい学生の理解と支援に関する学内研修講座

・発達障がい学生の理解と支援に関する学内連続研修講座の企画・実施

学習支援室企画として、令和元年 7 月 4 日に第 9 回発達障がい学生支援講演会を行った。「理解者が理解者をふやす」と題し、47 名の参加が得られた。また、令和 2 年 2 月 27 日には第 10 回発達障がい学生支援講演会特別編として、「榎本先生とトーク・トーク―大阪青山大学での 7 年間―」を開催し、12 名の参加が

得られた。

・発達障がい学生の支援は担任を始めとする学科・関係部署との連携

発達障がい学生に関する情報交換は常に担任（チューター)、学生支援センター・相談室・保健室などの関係部署と連絡を取り合っている。

オ 学習支援に係る文献・資料の収集の継続

平成 30 年度に倣い、教養ミニ講座「振り返り学習」での基礎学力支援において、基礎科目担当教員に参考書や指導方法の準備を行った。

カ 先進地視察等による最新の学習支援の情報の提供

令和元年 9 月 7 日、8 日　初年次教育学会第 12 回大会（創価大学）にて室長による研究発表「キャリア形成支援を見据えた初年次向け教育プログラムの実践研究−大阪青山大学/大阪青山大学短期大学部　学習支援室の取り組み−」と視察を行った。

令和元年 12 月 6 日　桃山学院大学の学習支援センターの方が実地調査に来られ、学習支援に関する意見交換を行った。

④ 学習支援に関する周知・広報活動の充実

学内のオリエンテーション、室の活動状況をブログで更新するなどを行った。

⑤ 学習支援アシスタント(SA)の活動

SA53 名を養成し、委員会活動として運営し、学科等の垣根を越えた学修に関する学生の話し合いや交流の場とすることができた。教養ミニ講座や大学祭での企画準備・実施についても SA が担った。

教養ミニ講座“青山コミュニティ”へ参加することで異学年・他学科の学生との交流を行っている。更に、昼休みに SA が待機していることで、大学での学びや学生生活について後輩が質問に訪れる機会を提供できた。その他に SA は活動時間外でも自習活動などで他の学生を伴い、学習支援室を積極的に活用していた。

⑥ 学生の自主学習グループの育成

本年度も学習支援室の利用方法を熟知している SA の働きかけで、グループでの自習利用が多く見られた（234 名利用)。

④　大阪青山学びプロジェクト

令和元年 7 月 12 日に第 1 回大阪青山学びプロジェクトの会議を行った。今年度の 7 回の会議で決まった企画案などを議論した。

付表 令和元年度 教養ミニ講座開催状況

No.	開催日	タイトル	参加者数
1	5 月 9 日〜5 月 17 日 クラス毎に開催	“青山コミュニティ”①「先輩からのアドバイス」	273
2	5 月 22 日	“青山コミュニティ”② 「楽しく、気軽にトーク・トーク!!」〜英語克服のためのコミュニティ〜	10
	5 月 28 日		10
3	6 月 27 日	“青山コミュニティ”③「健康栄養学科卒業生から後輩へ伝えたいこと」	11

4	6 月 25 日	“青山コミュニティ”④ 「試験前！　先輩、教えてください!!」	26
	6 月 28 日		18
	7 月 2 日		27
	7 月 4 日		22
	7 月 5 日		26
5	6 月 21 日	“青山コミュニティ”⑤ 「調理製菓学科卒業生から後輩へ伝えたいこと」	36
			31
6	6 月 19 日	“青山コミュニティ”⑥「看護学科実習前講座」～2 年次対象～	38
	6 月 20 日		45
7	7 月 8 日	“青山コミュニティ”⑦「看護学科実習前講座」～1 年次対象～	22
	7 月 11 日		18
8	7 月 5 日	“青山コミュニティ”⑧ 「保育士からくらしあそび家へ　―卒業生から後輩へ伝えたいこと―」	27
9	7 月 18 日	“青山コミュニティ”⑨「看護学科実習前講座」～3 年次対象～	22
10	9 月 27 日	“青山コミュニティ”⑩ 「インターンシップ・学外実習報告会」	27
	9 月 27 日		23
11	10 月より毎月曜日	“青山コミュニティ”⑪「文章の書き方相談」	0
12	10 月より第 1,3 金曜日	“青山コミュニティ”⑫「英語に関する相談」	1
13	10 月 27 日	“青山コミュニティ”⑬「ハロウィン講座」	80
14	11 月 1 日	“青山コミュニティ”⑭「看護学科相談」	11
15	11 月 19 日	“青山コミュニティ”⑮ 「クラス分けカフェ or 技術　どっちにする？」	28
16	11 月 20 日 11 月 21 日	“青山コミュニティ”⑯ 「公務員採用試験合格のための勉強方法をお教えします」	15 18
17	11 月 25 日	“青山コミュニティ”⑰「お菓子＆交流会」	0
18	12 月 5 日	“青山コミュニティ”⑱「不安解消講座」	11
19	12 月 6 日	“青山コミュニティ”⑲「なんでも相談会」	21
20	11 月 29 日	“青山コミュニティ”⑳「トーク&テスト前講座」	0
21	12 月 3 日	“青山コミュニティ”「楽しく、気軽にトーク・トーク」	27

22	12 月 9 日	“青山コミュニティ”㉑「病院実習にあたっての心構え」	16
23	12 月 10 日	“青山コミュニティ”㉒「二年次に向けての準備相談会」	26
24	12 月 20 日	“青山コミュニティ”㉓「クリスマスを楽しもう」	34
25	1 月 10 日	“青山コミュニティ”㉔「トーク&テスト前講座」	6
26	1 月 20 日	“青山コミュニティ”㉕「新春カルタ大会」	5
27	1 月 20 日	“青山コミュニティ”㉖ 「学科学年を越えてレクリエーションスポーツ」	19
参加者合計			1,030

vi　委員会等

1　大学自己点検評価委員会

○ 活動目標

前年度に引き続き、活動目標を「内部質保証システムの確立に向けた取り組みをすすめること」とし、認証評価第三サイクルにおいて重点項目化される「内部質保証」を見据え、その仕組みを整えていくための諸活動を推進することとした。

○　活動内容

(1) 委員会活動

令和元年度の委員会開催内容は以下のとおりである。

開催日	議案（協議内容）
令和元年10月25日（金） 10:40～11：43	○　平成 30 年度自己点検評価報告書の作成について協議 ○　私立大学等経常費補助金の交付申請に係る資料（教育の質に係る客観的指標調査票）について情報共有 ○　私立大学等改革総合支援事業への参画見合わせについて報告 ○　看護学科の設置計画履行状況調査における対応について情報共有 ○　その他 学生アンケートの提出について、本委員会の開催について意見交換.

(2) 自己点検評価書の作成

大澤委員長により、看護学科の実地視察のタイミングに合わせて自己点検評価報告書を脱稿、公表した。

なお、令和元年度の部分については、昨年度と同様に事業報告書により対応することとした。

(3) 教育の質に係る客観的指標の検討

本件について、望月委員からの説明に基づいて検討した。大澤委員長からは、各項目についてもう少しアクションを起こしていく必要があり、どこまでキャッチアップできるかもあるが、カリキュラムマネジメント体制など大学として方針を明確にしなければならないとの発言があった。引き続きカリキュラム編成等について、主に以下に関する意見と補足説明が行われた。

＊ 昨年の状況について、なぜ改善できなかったかを明確にしていく必要がある。
＊ カリキュラムの改善策は教務委員会で議論しなければならない。
＊ シラバスは昨年の教務委員会で検討した。
＊ ティーチング・ポートフォリオは年度内には策定する方向である。

(4) その他教学上の重要案件に関する検討

ＦＤ委員会で検討をすすめているティーチング・ポートフォリオ、アセスメント・ポリシーの策定や教員評価について本委員会に報告を求め、情報を共有した。

卒業時のアンケートについては、実施時期の再検討が必要であるとの意見が表明され、また在学生アンケートの結果については、学長から全学連絡会で教職員に伝えるなどフィードバックが必要であると以前から指摘があるが改善されていないとの指摘があった。

(5) 本委員会活動と事業計画・事業報告との連携

昨年度には事業計画書・事業報告書に自己点検評価の機能を含めることについて記述方法等を例示した。さらに試行的に事業報告書の内容を評価基準項目に転記し、その結果を検証した。

これを踏まえ、今年度は委員長がこれらの記載内容を大学として取りまとめた。

(6) 各種委員会委員長等の参画

昨年度に行った規程改正に基づき、教務委員長、ＦＤ推進委員長、学習支援室運営委員長を委員に加えた形で委員会を開催した。

〇総括

今年度は諸般の事情により委員会が実質的に１回しか開催できなかった。委員会の性格からして年度後半に開催が集中する本委員会ではあるが、１月以降、数回の開催を予定していたところ、新型コロナウイルス感染防止対応などの影響を受け、当初予定していた審議が行われなかったことは大変遺憾である。このことは大学全体の危機管理体制のありようとも関わるところであると認識し、今後の大きな課題である。

目下のところ大学の臨時休業により委員会開催のめどは立ってないが、令和2年度の大学再開後は、なるべく早期に本委員会を開催し、緊急時にも対応可能な自己点検評価体制を改めて構築する。

2　FD推進委員会

教員の資質の向上及び教育力の強化、学生の基礎学力向上及び専門能力の養成に向けて活動した。

(1) 授業アンケートの実施および評価

アンケートを可能な限り記名式で実施し、責任ある回答を促した。教員への依頼文にチェック欄を設け、アンケートの目的と趣旨説明の漏れがないようにした。アンケート集計結果をもとに「授業アンケート結果への対応」を作成するようにし、アンケートを授業改善のために利用する方策を検討した。授業アンケートの結果と結果への対応を図書館で公開した。

(2) 研修会の実施

令和2年3月11日（水）にティーチング・ポートフォリオ説明と講演会を予定していたが、コロナウイルスの感染予防のために中止した。

演題：教育の質保証と教育評価

講師：大阪教育大学准教授　八田幸恵氏

(3) FD・SD合同研修会の実施

令和2年2月14日（金）に大阪大学　座古勝名誉教授を招聘し、研修会「アカデミック・ハラスメントおよびパワー・ハラスメントの対策と防止」を開催した。

(4) シラバスの改善・充実

シラバスの書き方を統一し、学生に分かりやすい内容にするため、シラバス作成要領とチェックリストを作成した。

(5) 授業内容充実のための授業公開

全学・横断的な授業公開を行うこととした。全ての学部学科で公開授業を実施、調理製菓学科は常時公開した。本件関する報告書は、教務部で保存している。

(6) ティーチング・ポートフォリオの導入決定

ティーチング・ポートフォリオの令和2年度導入に向け、様式の決定と研修会実施に向けた準備を行った。(説明会は、未実施)

(7) 外部情報の収集・分析

他大学の活動内容の情報を委員の間で共有し、本委員会の活動指針について検討を行った。

3　SD 推進委員会

「大学事務職員」として、それぞれの職責や職務に応じて必要な知識と技能を修得するよう取り組み、学長のリーダーシップを支援できるよう、職員力を高めることに努めた。各種研修会は以下の通り計画的に実施した。

(1) FD・SD 合同研修会

大学職員の基本的な基礎知識を修得するため、ＦＤ推進委員会との合同研修会を開催した。

①第 9 回　発達障がい学生支援講演会（学習支援室との合同研修会）

日　時：令和元年 7 月 4 日（木）　16 時 30 分～18 時

場　所：本学　本館 2 階 210 教室

講　演：「理解者が理解者をふやす」－大学における支援の広まり－

学習支援室　榎本　義文

参加者：47 名（教員 25 名、職員 22 名）

②大学改革に関する取組み

日　時：令和元年 9 月 3 日（火）　15 時～16 時 40 分

場　所：本学　4 号館 6 階大講義室

講　演：「陸の孤島津山市に立地する美作大学、美作短期大学の生き残り戦略」

美作大学学長　鵜崎　実

参加者：82 名（教員 50 名、職員 32 名）

③大学におけるハラスメントと対策（FD 委員会の再掲）

日　時：令和 2 年 2 月 14 日（金）　14 時～15 時 30 分

場　所：本学　4 号館 6 階大講義室

講　演：「大学におけるハラスメントの防止と対策」

大阪大学名誉教授　座古　勝

参加者：60 名（教員 30 名、職員 30 名）

(2) SD 研修会

大学業務全般の情報共有と職員のスキルアップを図るため、各部署輪番で業務内容に係る勉強会を若手・中堅職員を発表者に実施した。部門を跨り多くの参加者が見られた。

①入試部

日　時：平成元年 9 月 11 日（水）　15 時～16 時

場　所：本学　4 号館 5 階 505 講義室

テーマ：「学生募集における現状と課題について」

入試部　伊藤　聖也

参加者：52 名（教員 27 名、職員 25 名）

②教務部

日　時：平成元年 10 月 16 日（火）　16 時 30 分～17 時 30 分

場　所：本学　4 号館 6 階大講義室
テーマ：「教務事務について」
教務部　甲賀　健太
参加者：41 名（教員 14 名、職員 27 名）

③学生支援センター
日　時：令和 2 年 1 月 21 日（火）　16 時 30 分～17 時 30 分
場　所：本学　本館 2 階 210 講義室
テーマ：「奨学金制度について」
学生支援センター　佐藤　優
参加者：28 名（教員 9 名、職員 19 名）

④進路支援センター
日　時：令和 2 年 2 月 19 日（水）　14 時～15 時
場　所：4 号館 5 階 505 講義室
テーマ：就職サポートについて
進路支援センター　山口　ひとみ
参加者：46 名（教員 16 名、職員 30 名）

(3) キャリア支援研修

本学の課題発見・解決を見据えつつ、教職員がキャリアアップすることを支援するため、次のことを行った。

【各種研修会等への参加支援】

①日本私立大学協会関西支部　「2019 年度初任者研修会の参加」
日　時：令和元年 6 月 10 日（月）
場　所：大阪ガーデンパレス
参加者：1 名

②私立大学協会　「私立学校法の一部改正に関する協議会の参加」
テーマ：「自主的なガバナンス機能の充実に向けて」
日　時：令和元年 7 月 16 日（火）
場　所：アルカディア市ヶ谷（私学会館）
参加者：1 名

③私学経営研究会　「私学経営セミナーの参加」
テーマ：「社会の変化に対応する職員研修の在り方」
日　時：令和元年 8 月 6 日（火）
場　所：大阪ガーデンパレス
参加者：1 名

④大阪市立短期大学協会　「大学 IR 人材育成講習会の参加」
テーマ：「IR 分析と業務改善」
日　時：令和元年 9 月 3 日（火）
場　所：大阪夕陽丘短期大学
参加者：1 名

⑤私学研修福祉会･日本私立大学協会　「令和元年度事務局長担当者研修会の参加」
日　時：令和元年 9 月 24 日（火）～26 日（木）
場　所：神戸ポートピアホテル
参加者：1 名
⑥大学コンソーシアム大阪　「2019 年度初任者 SD 研修の参加」
テーマ：「「協働」のための基礎力を身につける」
日　時：令和元年 10 月 2 日（水）
場　所：キャンパスポート大阪
参加者：1 名
⑦私学研修福祉会･日本私立大学協会　「令和元年度事務局長担当者研修会の参加」
日　時：令和元年 10 月 2 日（水）～4 日（金）
場　所：神戸ポートピアホテル
参加者：1 名
⑧文部科学省　「2019 文教施設セミナーの参加」
テーマ：「未来につながる学校づくりセミナー」
日　時：令和元年 10 月 11 日（金）
場　所：新大阪丸ビル別館
参加者：1 名
⑨私学研修福祉会・日本私立大学協会　「令和元年度大学経理部課長担当者研修会の参加」
日　時：令和元年 10 月 16 日（火）～18 日（木）
場　所：神戸ポートピアホテル
参加者：1 名
⑩池田市公共職業安定所　「企業トップクラス研修会の参加」
テーマ：「採用の自由と就職差別～採用時の個人情報収集を考える～」、「パワーハラスメント対策について」
日　時：令和元年 12 月 9 日（月）
場　所：池田市市民会館
参加者：1 名
⑪私学経営研究会　「1 月定例セミナーの参加」
テーマ：「私学管理者のための法律知識」
日　時：令和 2 年 1 月 15 日（水）
場　所：大阪ガーデンパレス
参加者：1 名
⑫私学経営研究会　「2 月定例セミナーの参加」
テーマ：「定員割れ時代における私学の成長戦略」
日　時：令和元年 2 月 14 日（金）
場　所：大阪ガーデンパレス
参加者：1 名
⑬コンソーシアム大阪　「SD 研修　2019 年度キャリア形成入門の参加」

テーマ：「スタッフ・ポートフォリオとメンタリングを用いて、可能性を引き出し生かす」
日　時：令和2年2月14日（金）
場　所：キャンパスポート大阪
参加者：1名

【自己研鑽への支援】
大学職員としての知識を深めるため4号館2階フロアーに設けた「SD関係書籍コーナー」を引き続き設置し、自己研鑽への支援を行った。

vii　事務部門等

1　総務部

(1) 大学ガバナンス改革の推進

学長のリーダーシップの支援体制の強化を図るため、引き続き諸制度や関係規程を見直し、理事会等に諮り整備をした。主な規程等は次のとおりである。

① 私立学校法の一部改正に伴い、学園の寄附行為を改正するとともに、大阪青山学園役員報酬規程（昭和61年5月1日制定）を廃止し、新たに「役員の報酬等の支給の基準」を制定した。（令和2年4月1日施行）

② 教職員の非違行為に関し、懲戒の種類、方法等に関する規定の整備を行うため、学園の就業規則の一部改正を行った。（令和2年1月24日施行）

③ 学園のガバナンス・コードを制定した。（令和2年4月1日施行）

④ 学園組織規程を改正し、学園本部に「経営企画室」を設置し、大学組織の「学習支援室」を「リテラシーサポートセンター」に名称変更した。（令和2年4月1日施行）

(2) 大学自己点検評価委員会及び短期大学部自己評価委員会の支援

① 大学自己点検評価委員会及び短期大学部自己評価委員会が行う自己点検について、自己点検評価室（担当・総務部）を中心に、資料の取り纏めなどの支援を実施した。

(3) 同窓会活性化の支援

短期大学部の同窓会と大学の同窓会の合併により平成30年度に新たに発足した「青櫻会」の活動活性化に向け、引き続き支援に努めた。

(4) 経費の削減

① 中期計画に基づく事業計画とそれに伴う予算編成について、全部門長、担当者に向けた説明会を実施し、効率的・効果的な予算管理や経費執行の促進に努めた。

② 予算の来期予定及び執行状況を把握するため、期中において全部門にヒアリングを実施した。

(5) 資産管理の充実

固定資産及び物品管理規程に基づき、引き続き固定資産管理の適正化に努めた。

(6) 教育後援会関係

教育後援会の活動に関し、令和元年度の決算事務、令和 2 年度の予算案を取りまとめるなど、教育後援会の業務を引き続きサポートした。

2　教務部

(1) 教務課

① カリキュラムの改善

教員養成課程再課程認定の認可を受け、健康栄養学科及び子ども教育学科の教育養成課程、看護学科においても教育課程の改編を行い、それぞれ新課程が導入された。新課程への円滑なる移行に関して、計画通り遂行中であるが若干再履修者が存在するため、混乱なきよう今後も努めたい。また、編入生にも同様のことが考えられるのでこちらも同様に配慮を行う。

② 教養教育の充実

ここ数年、教養教育の中でも本学の教育目標を具現化するため、伝統文化に関する科目を必修開講とし、本学の特色を成す科目と位置づけてきた。学生の授業アンケートでも概ね講評である。引き続き、本学の特色を成す科目として定着させていきたい。

③ 授業の改善

授業アンケートによる結果に関しては、科目担当者及び学長・副学長・学部長に報告し改善を依頼しているが、学生からの教務部窓口への要望は年々増加している。その全てを、学科長・学長・副学長へ報告し、授業の改善はさることながら、科目担当の見直しや適正配置を行った。

④ 学修成果の把握

多様化した学生が多く、日々の教育成果の把握が欠かせない状況となっており、各教員が評価方法を工夫し、小テスト（理解度テスト）やレポート、グループワーク等を取り入れる科目が増加している。次年度に向けて、ＦＤ推進委員会と連携しティーチングポートフォリオの全学的な取り組みも合わせて注力したい。

⑤　学修環境の整備

アクティブラーニングに耐えうる教室を設けることについては、ラーニング・コモンズも含めて行えていない。環境整備の一環として、電子黒板の追加と 2-603、4-505、4-506 教室、4 号館大講義室のプロジェクターをレーザー仕様に変更した。

次年度も優先度を勘案しながら、中長期設備計画に基づきながら改善に取り組みたい。

⑥ 看護学科コアカリキュラムの導入への対応

看護コアかリュラムに基づき、専門教育科目の改編は計画通り遂行した。

(2) 高大連携室

① 大阪府立能勢高校との連携

令和元年度の能勢高校の第 2 学年生の「子どもの発達と保育」2 単位の授業の一部を大阪青山大学と連携して行う。令和元年度からは、保育と福祉を選択している生徒約 5 名に保育及び福祉について理論的な内容を大学の講義で受講している。保育現場や福祉の現場での体験の前後で、大学教員の講義を受けさせることが決定された。

日　時：令和元年 11 月 28 日（木）午前 10 時から午後 3 時

参加者：能勢高校 2 年生　5 名　引率　家庭科担当教諭　齋藤友貴先生

内　容：子育て支援室見学（外部から）　能勢高校生徒 5 名と齋藤教諭

ミニ講義「保育について」　担当林冨公子（4 号館 610 室）

講義担当　戸松玲子学科長（子育て支援室）

② 大学での体験授業（入試部扱い）

大阪府立茨木西高等学校

実施日 ： 令和元年 7 月 11 日（木）

内　容 ： 「子ども教育学科の体験授業」

3　保育・教職支援室

(1) 保育・教職支援室の職務

① 私立の保育所・幼稚園・施設関係への就職希望の学生に対して、学生一人ひとりの個性や能力、ニーズに応じたよりよい就職活動ができるよう、子ども教育学科と連携を図りながら就職支援を行った。

② 公立の保育所・幼稚園・小学校・施設関係への就職希望の学生に対して、子ども教育学科や健康栄養学科と連携をとりながら、採用試験合格に向けての支援を行った。

③ 将来の進路や就職を見据え、保育所・幼稚園・小学校・施設での保育実習・教育実習などの充実を図った。

④ 子育て支援室の充実に向け、参加者のニーズに応じた支援・補助に努め、参加者から好評であった。

(2) 職務達成のための取り組み

① 就職先の確保・情報提供

私立の保育所・幼稚園・施設関係について、新規開拓先も含めて求人票を発送し、返送された求人票や別途独自に送付されてきた求人票はファイルに整理する

とともに学生が見やすいように掲示するなど情報提供に努めた。教員との連携を図りながら学生に多くの求人先を提供することができた。

また、公立の保育士や教員などを志望する学生については、都道府県・政令指定都市・市町村の採用試験受験案内の収集・整理を行い、保育教職支援室にも掲示するなどタイムリーな情報提供に努めるとともに、採用試験受験にむけて一人ひとりの学生のニーズに合った具体的な相談や指導を行った。

② 就職関連事務

各求人先との連絡調整、学生への情報提供・アドバイスに努めるとともに、「保育・教育者を目指して」（仮称）の冊子作成を行う。また、保育士資格や教員免許の取得申請事務を行った。

③ 採用試験対策に関わる支援

公立の保育士や幼稚園教諭、小学校教諭、施設職員になるためには、各自治体が実施する採用試験に合格する必要がある。それに向け個々のニーズを把握し、担当教員が中心となって次のような試験対策を実施した。それにともない、対策講座の日程調整や受講事務等の補助・サポートに当たった。

・採用試験に関する相談・指導
・教職教養、一般教養、専門科目、一般知能などの筆記試験の指導、模擬試験の実施・事後指導、エントリーシートの記入指導、論作文の書き方指導、面接・場面指導、模擬授業・保育の指導
・小学校教員採用試験における大学推薦に関する指導
・保育所、幼稚園、小学校などでのボランティア活動に関する紹介・指導
・各教育委員会主催の「教師養成塾」の案内・受験に関する指導
・講師登録に関する指導

【教員・公務員試験対策講座概要及び受講者数】

・教職共用対策講座：令和元年 10 月 21 日～12 月 23 日　全 20 コマ
受講人数：7 名
・一般教養対策講座：令和２年 3 月 10 日～3 月 26 日　全 21 コマ
受講人数：14 人
・一般知能対策講座：令和元年 10 月 17 日～12 月 26 日　全 16 コマ
受講人数：12 人
・保育士専門対策講座：令和 2 年 3 月 10 日・11 日　全 4 コマ
受講人数：4 人
・幼稚園専門対策講座：令和 2 年 3 月 17 日・25 日　全 4 コマ
受講人数：6 人

【就職状況】

私立関係

	就職希望者数	就職内定者数	就職率
幼稚園	7 名	7 名	100%

保育園（所）	15 名	15 名	100%
施設	0 名	0 名	100%
認定こども園	5 名	5 名	100%
放課後デイ	3 名	3 名	100%
合計	30 名	30 名	100%

公立関係

	就職希望者数	就職内定者数			就職率
		合格者	講師	合計	
小学校	20 名	5 名	15 名	20 名	100%
幼保	2 名	2 名	―	2 名	100%
合計	22 名	7 名	15 名	22 名	100%

④ 保育実習・教育実習などの実習支援

子ども教育学科では 2 年次から 4 年次前期にかけて、保育実習（施設実習）・幼稚園実習・小学校実習（介護等体験実習）を 9 回実施している。それらの実習が円滑に実施できるよう、実習委員会に出席するなど実習担当教員との連携を図り、次のような実習支援を行った。

・実習先オリエンテーションの指導及び日程確認
・実習先との連絡調整・書類準備
・次年度の実習依頼
・実習日誌や実習資料の印刷・配付
・実習後の日誌等の書類確認
・細菌検査や健康診断の業者との打ち合わせ等
・「合同実習委員会」「教育実習連絡協議会」の事務

⑤ 子育て支援室の補助

原則水曜日を除く午前中、研究や学修の向上にむけ、子育て支援室に来室する保護者と幼児の補助・支援に当たり、地域に開かれた大学としての評価も高めるよう努めた。

⑥ 図書等の蔵書管理・貸出業務

教職支援室に、公立の採用試験対策の参考書や問題集などを整備し、学生の自主的な学修場所として提供した。それに伴い、図書の貸出業務や蔵書の管理を行った。また、4 号館 610 教室を学生の採用試験にむけての自習室として開放し、その管理も行った。

(3) 今後の課題

① インターンシップ制度とボランティア制度の導入について

学生の進路意識を高め、進路決定の一助とするためにも、保育所・幼稚園・小学校などでのインターンシップ制度やボランティア制度について学生へ周知を図

るとともに、保育・教育現場での実践力をつけるための一助として推奨した。今後その単位認定も視野に入れながら関係学科や部署との協議の検討が必要である。

② 情報提供の早期化に向けて

3コース制になり、2年次生で進路選択を明確にするようになる。その選択にむけての情報提供などを行うためには、2 年次生前期からの関わりが重要となる。特別時間等を活用し、2年次生への就職関連のオリエンテーションを実施した。

③ 教職支援室の体制整備について

現在、教職支援室のスタッフは、子ども教育学科の事務も兼任している。子ども教育学科の事務については、実習・就職・子育て支援室サポートなど多岐にわたる。子ども教育学科事務としての業務に専念できるよう体制及び業務内容を継続して検討する必要がある。

4　学生支援センター

(1) 学生課

① 生指導・厚生、行事

学生の願いや実態を的確に把握するとともに、課題に丁寧且つ迅速に対応し、学生サービスに努めることで、学生の満足度向上を図ることに努めた。

ア 通学バス

平日は8：00～19：45、土曜日は8：00～17：50の間、運行した。また、授業や行事予定を勘案したり、適宜乗車人数調査を実施したりして、バス運行会社との連絡を密にし効率の良い運行ダイヤの組み換えを行った。

また、次年度から 45 人乗りの中型バスを導入し、新たにバスの運行会社と委託契約を締結し、既存のバスと併用運行することで、さらなる輸送力のアップと効率的な運行に努めることとした。

イ 駐車場管理

・前年と比べ125CC以上の大型車の希望が増加したため、できる限り学生のニーズに応えられるよう、区割りを工夫して大型車の駐輪が可能なスペースを増やした。

・オリエンテーションでの指導や駐輪場内の定期的な巡回等を通して、学生の交通安全や駐輪マナーの意識の向上に努めた。

ウ 課外活動（自治会、クラブ・サークル）の支援

＜自治会（学青会）活動の支援＞

・平成31年4月にクラス代表（クラス委員・学青会委員）を選出した。

・令和元年5月10日(金)　学青会総会を開催し、総務役員の選出、大学祭実行委員会の決定、事業計画と予算を決定した。

・令和元年10月26日(土)に前夜祭、27日(日)に大学祭を開催した。72%の学生が、大学祭か前夜祭のいずれかに参加した。

お笑いライブステージを実施したほか、食品の模擬店に加え「男装女装コ

ンテスト」や「ラムネ早飲み競争」など、自主企画のイベントを開催し好評を得た。

・令和元年 12 月に総務役員を改選し、令和 2 年 3 月末までに引継ぎを行った。

＜クラブ・サークル活動の支援＞

・平成 31 年 4 月 10 日(水)　クラブ・サークル部長会議を開催し、活動計画や名簿の提出について説明した。

・令和元年 5 月 22 日(水)　活動補助申請について説明した。

・令和元年 10 月 2 日(水)　後期のクラブ・サークル活動について話し合った。

・令和元年12月4日(水)　活動報告書と補助金精算書の提出について説明した。

・上記の他、全 11 回部長会やミーティングを開催して、クラブ.サークル活動を支援した。

＜指定強化クラブ（女子ソフトボール部）の支援＞

・一部リーグ所属復帰を目指す女子ソフトボール部に対し、年間を通じて北摂キャンパスでの練習、遠征合宿、招待試合、遠征試合等のバスの手配や、予算の適正管理に適宜対応した。

・同部は本来のクラブ活動のみならず、毎週 1 回の箕面駅周辺の清掃活動や箕面市消防団の学生消防隊「MATOY」の活動等の地域連携活動や、被災地支援等のボランティア活動等社会貢献活動に積極的に取り組んでおり、地元自治体や団体との連絡や交渉などの支援をした。

エ ロッカー室

学生（看護学科以外）に個人用ロッカーを 1 年間貸与し、自己管理させた。

オ 食　堂

学生食堂委託業者との契約が期限を迎えることを受けて、次年度からは㈱ワイズキッチンと新たに契約を締結し、食堂運営を委託することとした。

同時に、学生食堂「にいなホール」の全面改修工事が完了することから、施設設備に対する満足度及び食事メニューや内容に対する満足度、ハード面・ソフト面の両面で満足度アップを図っていく。

② 心身の健康

ア 定期健康診断

予定どおり平成 31 年 4 月 6 日(土)に全学科の定期健康診断を実施した。診断で異常所見が有った学生には、本人への通知だけでなく保護者にも結果を連絡し、再検査の受診を促す等、学生の健康管理をサポートした。

イ 学生教育研究災害障害保険

・正課中や課外活動中でのケガや事故、または通学途上での交通事故について、保険が適用されること等保険制度の周知を，オリエンテーションや掲示物等を通じてより一層図るとともに、安全指導を強化した。

・1 年間で、15 件（大学 12、短大 3）の保険請求があった。

ウ　学生相談室

・学生が利用し易いよう、昨年度の週 2 回から週 3 回に回数を増やし、平日の火、水、木曜日の 11：00～17：30 にカウンセラー(臨床心理士)を配置し、

教職員や保健室、学修相談室とも連携して、学生のケアに努めた。

・より多くの学生に、学生相談室の存在を認知してもらい、気軽に訪問してもらえるよう、学生相談室主催で「ハーバリューム」「コラージュ」「バスボム作り」のイベントを実施した。

エ 保健室

月曜から金曜の 8：45～17：30 の間、保健師（看護師）が在室し、学生のケガや急病等に対応した。

また、学生相談室や学習支援室とも連携して、学生のケアに努めた。

③ 学生の意見の聴取

ア 学生と学長との懇談会

「学生と学長との懇談会」を、令和元年 7 月 12 日(金)に実施した。学生は学青会役員 10 名が参加した。

駐輪場や喫煙所等施設の改善要望、授業や教職員に関する要望、食堂メニューや通学バス等学生生活全般について等々、種々の事項について活発なディスカッションが行われた。

内容を検討し、できる限り学生の要望に応えられるよう努力することとした。

イ 学生生活意識・実態調査

平成 30 年度まで隔年実施していた「学生生活意識・実態調査」を、令和元年度以降は、教務部導入の新教学システムを活用して毎年実施する。

調査内容については、各学科・各部署とも協議して精査・検討する。また、調査結果についても精査・検討し、できる限り学生の要望の実現に努め、学生の満足度向上に繋げる。

③ 奨学金

学修や学生生活に真面目に積極的に取り組み、人物学力共に優れた学生で、経済的に困難な状況にある学生を資金面で支援するため、奨学金の給付・貸与を実施した。

ア 日本学生支援機構奨学金

学修面で優秀な学生に対して、以下に掲げるような奨学金の貸与と給付を行った。

① 日本学生支援機構奨学金

令和 2 年 4 月から実施される新たな給付奨学金について、在学生向けの予約申込説明会を令和元年 11 月～12 月に行い、139 人が予約申請した。

② 塩川学修奨励金

健康栄養学科 9 人、子ども教育学科 10 人、看護学科 11 人、調理製菓学科 2 人、に支給した。

③ 入学試験成績優秀者給付奨学金

健康栄養学科 2 人、子ども教育学科 3 人、看護学科 4 人、調理製菓学科 2 人、に支給した。

④ 同窓生家族入学金支援制度

7 人に支給した。

(2) 地域連携課

高度な専門知識及び種々の教育的資産を有する地元の大学として、これらの知的財産を地域に公開し、地域社会における課題解決に取り組み、地域の皆様に本学が「地域に欠かせない存在」と認識してもらえるよう、また学生が「社会に貢献できる人材」として成長できるよう、下記のような「公開講座」や「地域活動」に積極的に取り組んだ。

○ 公開講座

① 公開講座の開催

下表のとおり、本学主催の公開催講座に地元団体との共催講座も含めて 18 講座を開催し、包括協定を締結している近隣 3 市（箕面、池田、川西）の市民を中心に、応募者数 1,001 名、参加者数 578 名を得た。

（単位:名）

		講座名		応募	参加
		担当講師	実施日		
本学主催公開講座	①	A-1　書道教室「令和」(色紙)と「万葉集～序章～」(短冊)に挑戦		18	16
		山下　紀代美（非常勤講師）	R01.06.15		
	②	A-2　大阪青山歴史文学博物館 展覧会『ふるさと北摂』見学と展示解説		33	28
		小倉　嘉夫（博物館主任学芸員）	R01.06.27		
	③	A-3　妊婦さんのための安心講座「バースプラン」		2	未催行
		新増　有加（看護学科講師）	R01.07.07		
	④	A-4　夏休み特別講座 子ども講座「美術品に親しむ」		31	30
		小倉　嘉夫（博物館主任学芸員）	R01.0804		
	⑤	A-5　淀川花火鑑賞会		331	106
		講師なし	R01.08.10		
	⑥	A-6　夏休み特別講座 おもしろ実験教室「ボトルの中に“夕焼け”をつくろう」		145	56
		萩原　憲二（子ども教育学科教授）	R01.08.20		
	⑦	A-7　親子で元気っず体操		10	18
		村田　トオル（子ども教育学科准教授）	R01.09.14		
	⑧	A-8　食文化を伝える意義		32	23
		藤原　政嘉（健康栄養学科教授）	R01.0804		
	⑨	B-1　笑いヨガ　～笑うことで心も身体も健やかに～		26	23
		北村　佐惠子（保健室保健師）	R01.11.09		
	⑩	B-2　大阪青山歴史文学博物館 展覧会『天皇の宸翰』見学と展示解説		14	12
		小倉　嘉夫（博物館主任学芸員）	R01.11.14		
	⑪	B-3　陶芸教室(初心者対象)　～ご飯茶碗作りに挑戦～		19	19

		加藤　和宏（非常勤講師）	R01.12.16		
	⑫	B-3　陶芸教室(初心者対象)　～ご飯茶碗作りに挑戦～		19	19
		加藤　和宏（非常勤講師）	R01.12.17		
	⑬	B-4　簡単「編み物」講座		22	17
		古田　豊子（子ども教育学科教授）	R02.01.15		
	⑭	B-5　和菓子作りに挑戦		21	17
		松家　光史（非常勤講師）	R02.01.25		
	⑮	B-6　加齢による「筋肉の衰え」を考える		57	48
		奥野　久美子（看護学科准教授）	R02.02.05		
	⑯	B-7　高齢期の食を愉しむ　―無理な食事制限を見直す―		44	未催行
		藤原　政嘉（健康栄養学科教授）	R02.02.21		
本学主催公開講座合計（A）				824	432
連携公開講座	①	池田市中央公民館 イキイキライフ脳体操　～認知症を知る～		58	52
		西地　令子(看護学科教授)	R01.10.16		
	②	HSN ネット公開講座 高齢期の食を愉しむ　―無理な食事制限を見直す―		26	18
		藤原　政嘉（健康栄養学科教授）	R01.11.08		
	③	池田市中央公民館 クリスマス子ども実験教室「電磁石実験」		65	54
		萩原　憲二(子ども教育学科教授)	R01.12.08		
	④	箕面ヒューマンズプラザ 親子で元気っず体操		28	22
		村田トオル(子ども教育学科准教授)	R02.01.12		
共催公開講座合計（B）				177	146
総 合 計（A+B）				1,001	578

② 公開講座の内容については、地元自治体が標榜している「健康で豊かな暮らしができるまちづくり」「安心して子育てができるまちづくり」の一助となることを念頭において、講座づくりに取り組んだ。また、公開講座実施の際に行っているアンケート調査を参考にしたり、箕面、池田、川西の 3 市を中心に、各市や各種団体等の担当者と協議したりするなど、地域や市民の皆さんのニーズや意見を広く取り入れるよう心掛けた。

③ 各種ジャンルや幅広い世代の多様なニーズに応えられるよう、講師として本学全学科の教員はもとより非常勤講師の協力を得て、幅広い講師を配した。

④ 本学の施設開放による地域貢献という観点から、学舎講義室から「淀川花火」を鑑賞していただくイベントを、初の試みとして実施した。募集人数の 3 倍以上の応募をいただき抽選となるほど、多くの市民の皆様に楽しんでいただいた。

⑤ 今年度も、小学生を対象に夏休み宿題の自由研究の参考になるよう、「夏休み特

別講座」を実施したところ、募集人数の倍以上の応募をいただき、保護者も含め多数の参加者に楽しんでいただいた。

⑥ 令和2年2月21日に実施を予定していた「高齢期の食を愉しむ」は、新型コロナウイルスの影響で、やむを得ず開催中止とした。

○ 地域活動

① 女子ソフトボール部学生によるボランティア活動の実施

毎週水曜日の朝、女子ソフトボール部学生が駅周辺の清掃活動を実施した。この清掃活動は9年継続して実施しており、着実に市民の皆さんにも認知されるようになってきていて、作業中に市民の皆さんから声を掛けていただくことも多くなり、学生の大きな励みになっている。

また、箕面市と箕面市消防本部の要請を受けて、平成29年12月に発足した学生消防隊「MATOY(マトイ)」の活動も継続して行った。令和2年1月3日の「出初式」や1月17日の防災訓練への出動をはじめ、救命講習会への参加、箕面駅前でのちらし配りなど、消防団のＰＲ活動や火災予防の啓発活動等に従事した。

② ガンバ大阪連携事業

学生自らが連携事業の内容を計画、立案して実施する、「ガンバ大阪連携プロジェクト学生チーム」を新たに結成。健康栄養学科を中心に1年次生の学生40名以上が参加しミーティングを重ね検討した結果、①「骨密度測定」　②子ども向け「サッカーボーリング」　の2事業を、公式戦ホーム最終戦の日(R01.11.30(土))に、スタジアム前Ｇパークの特設テントで実施した。

健康栄養学科では、「骨密度測定」は2年次生より本格的に学修を開始するが、プロジェクトチームの学生は教員の協力を得て測定機器取扱い練習を重ねたほか、骨粗しょう症対策のための食事メニューや生活習慣に関する学修に励むなど、事前準備に積極的に取り組んだ。

当日は、キックオフまでの3時間ほどの短時間のイベントであったが、「骨密度測定」に90名以上のサポーターが列をなした。また、「サッカーボーリング」には延べ200名以上の子どもたちが挑戦し、ゲームを大いに楽しんだ。

③ 各自治体や団体主催のイベント等への協力参加や、市民講座等への講師派遣等の活動を、以下のとおり積極的に実施した。

ア 給食材料の放射性物質検査（継続事業）

箕面市教育委員会から依頼を受け、箕面市から無償貸与された放射性物質検査機器を使って、幼・保育園給食材料の放射性物質の検査を実施した。本学教員と学生が、毎月2回程度定期的に持ち込まれる給食材料の検査を行い、検査結果を箕面市教育委員会へ報告した。

イ 講演・講師派遣等の協力

a 箕面市からの次の内容の協力要請に、教職員や学生が応じた。

・令和元年7月、教員と学生が「箕面市生涯学習教室　シニア塾」の料理教室について、本学の実習施設にて講師を務めた。

・令和元年9月に教員が、「みのおアイディアメニューコンテスト」の審査委員を

務めた。

・教員が「箕面市立公民館運営審議会」及び「生涯学習センター運営審議会」の委員に、一昨年度から継続して就任した。

・職員が「メイプル文化財団理事」に、一昨年度から継続して就任した。

・職員が「メイプル文化財団企画運営委員」に、一昨年度から継続して就任した。

・箕面市食と産推進室の依頼により、本学教員が箕面市における「食育」についての調査、研究等について、アドバイスや考察を行った。

b 川西市からの次の内容の協力要請に、教職員や学生が応じた。

・教員が「川西市健康づくり推進協議会」の委員に、一昨年度から継続して就任した。

・川西市東谷コミュニティからの依頼により、同コミュニティの「文化講座」として、大阪青山大学歴史文学博物館の主任学芸員による講演と同博物館見学及び、「子どもかるた大会」の会場提供を、令和元年 12 月 22 日(日)に実施した。

c 池田市からの次の内容の協力要請に、教職員や学生が応じた。

・教員が「池田市図書館協議会」の委員に、一昨年度から継続して就任した。

・大阪府民カレッジ池田校の講師として 1 名の教員と学生が、令和元年 12 月 14 日(土)に料理実習と栄養と健康についての講義を本学内で行った。30 名を超えるカレッジの受講者・スタッフが参加し好評を博した。

ウ その他の活動

a 能勢町商工会の依頼により開発した新商品の販売イベントへの参加

昨年、能勢町商工会からの依頼で能勢町産のブルーベリーを使った、新商品(加工品)「かき氷のシロップ」の開発に至っていた。本年度も引き続き、同商品の改良とこれを販売・アピールするイベントへの応援参加の依頼が能勢町商工会からあり、調理製菓学科製菓コースの教職員と学生が参加した。

b 能勢電「一の鳥居」駅前活性化に協力

地元自治会バリアフリー化委員会や川西市等からの要請を受け、一の鳥居駅の利用者を増やすため、ハイキングイベント開催に協力した。本年度のイベント協力は、通常の「能勢電ハイキング」より更に規模の大きい「関西中小私鉄合同ハイキング」への協力であったこともあり、ゴール地点として本学北摂グランドの提供に加え、ハイキング参加者に本学歴史文学博物館の特別拝観と主任学芸員の展示解説を提供した。その結果、同イベントでの最大規模の 1,600 名以上人に参加いただいた。また、博物館も 400 名以上の来館者があった。

④ 学生の参加

上記の地域活動には、できるだけ多くの学生が参加し、学内の授業では得られない社会との触れ合いや実務を経験してもらえるよう努めた。

ア 公開講座 18 講座のうち、5 講座に 17 名の学生がサポート役として携わった。

イ「箕面市生涯学習教室　シニア塾」の料理教室に、学生 6 名もサポート役で参加した。

ウ「大阪府民カレッジ池田校」の料理教室に、学生 7 名もサポート役で参加した。

エ 学生も参加したその他の各種イベントや事業等

a 学生が、箕面市立の子育て支援施設で行われたイベントにボランティア参加し、運営に協力した。また、市立小学校で実施された、放課後の子ども見守り活動にも、ボランティアで参加した。

b 箕面市青年会議所主催の「わんぱく相撲」の運営の補助に、学生3名が参加した。

C 箕面市立病院「医療フェスタ」への協力

箕面市の依頼により、令和元年 5 月に健康栄養学科の教職員と学生が標記イベントに協力参加し、市民病院でSATシステムを使った食事相談を実施した。

d「箕面まつり」への参加　（令和元年7月）

BIGBANDサークルが“ステージ”へ、女子ソフトボール部が“パレード”へ参加した。

e「大阪市食育キャンペーン」への協力

大阪市の依頼により、令和元年7月に健康栄養学科の教職員と学生10名が標記イベントに協力参加し、イオンモール鶴見緑地店の特設コーナーで、SAT システムを使った食事相談を実施した。

f「箕面市食育大会」への協力

箕面市の依頼により、令和元年11月に健康栄養学科の教員と学生8名が標記イベントに協力参加し、メイプルホールの特設コーナーでSATシステムを使った食事相談を実施した。

5　進路支援センター 就職課

(1)「一般企業、医療・福祉就職希望者の就職率100%」目標について

就職内定の状況は下記表の通り大学は98.1%となった。うち就職課が主に対応している健康栄養学科内定率98.6%、子ども教育学科企業内定率は100%となり、健康栄養学科の未内定者1名に関しては現在も連絡を取っている。短期大学は昨年同様100%となった。

内定の時期としては、大学早期内定者（4月～7月）が81%となり、1dayインターンシップ参加者32人のうち93%に当たる30人が早期に内定しており3年次からの活動が結果として結びついていると考える。

短期大学の早期内定者（4月～8月）も72%となり、大学、短期大学共に早期に活動することの支援が大事であり、それに基づく支援内容の構築が今後も必要である。

令和元年度　大学内定状況

	健康栄養学科	子ども教育学科				看護学科	大学合計
		計	内訳				
			公立	私立	企業		
在籍者数	78	82				77	237

就職希望者数	69	73	23	30	20	71	213
内定者数	68	72	22	30	20	69	209
就職率	98.6%	98.6%	95.7%	100%	100%	97.2%	98.1%
前年同月就職率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

［在籍者数と就職希望者数の差］
・健康栄養学科　9名（進学2名、留学1名、休学1名、留年4名、家事手伝い1名）
・子ども教育学科　9名（留学1名、就活なし3名、卒業延期1名、留年4名）
・看護学科　　6名（進学1名、留年4名、休学1名）

令和元年度　短期大学部　内定状況

	調理製菓学科 調理コース	調理製菓学科 製菓コース	短大 合計
在籍者数	24	24	48
就職希望者数	24	23	47
内定者数	24	23	47
就職率	100%	100%	100%
前年同月就職率	100%	96.6%	98.4%

［在籍者数と就職希望者数の差］
・製菓コース　　1名（留学1名）

(2) 目標達成のための施策
① 企業開拓
企業訪問状況　　（単位：件、パーセント）

	訪問件数	前年	前年比（%）
既存企業	139	324	42.9
新規企業	10	506	2.0
合計	149	830	18.0

ア 既存企業
a 定期的訪問で各企業人事担当者との関係構築を強化できた。

b 定期的、計画的訪問で求人票を取得できた。
c 学内業界研究会、及び学内企業説明会の招聘を行った。
d 広域企業（東京本社、その他）4 社を訪問した。
イ 新規企業
a 関西圏企業、病院、広域企業のリストアップ、並びに計画的訪問をした。
b 学内業界研究会、及び企業説明会への招聘を行った。

○ アオキャリ（就職支援システム）の活用
ア 既存企業
企業訪問時にアオキャリに求人登録をお願いした。
イ 予算削減実施のため文書送付せず。
②進路支援
ア 個別相談
・キャリアコンサルタント 3 名（外部 2 名、職員 1 名）による学生相談、受験対策（面接練習、書類添削）を年間 2,200 件行った。
イ 学内外就職支援セミナーの実施（別紙参照）
a 学内企業説明会を 6 回実施した。
b 卒業生による「OB・OG 懇談会」を実施した
c 外部講師セミナーとキャリアコンサルタントによる学内セミナーを各学科の要望に沿って企画、提案し 38 回実施した。
d ランチセミナーを 4 回実施した。
e 他大学との合同セミナー（大阪学院大学グループディスカッション対策・千里金蘭大学学内インターンシップ）に本学学生が限定枠で参加した。
f その他
初めて春休み 1 日を利用し「まるごと 1 日就活 day」を企画し、午前に学内企業説明会 7 社と午後から 5 つのセミナー同時開催を予定していたがコロナ影響で中止になった。次年度同内容で実施予定。
ウ インターンシップ
a 健康栄養学科 2・3 年次生対象に企業インターンシップ（1DAY、2DAY）について情報提供、及び参加の必要性を外部講師セミナーとオリエンテーションで推奨した結果 32 人が参加した。
b 企業人事担当者との面談でインターンシップの情報を収集し学生に掲示、案内した。
c 他大学学内インターンシップに 4 名参加した。
d 初の試みとして 3 企業の学内インターンシップを実施し、学内で他大学合同インターンシップを主催した。（千里金蘭大学参加）
エ 「アオキャリ」キャリア支援（求人検索システム）クラウドサービス
a アオキャリの活用
・求人データの一元化を図り、郵便で届いた求人票も即日アオキャリに反映させ学生に情報提供を行った。

（年間求人数 16,892 件、企業数 8,050 件、アクセス数 8,900 件アクセスユーザー数 421 人）

・トピックスにセミナー情報を更新し参加を促した。

b 既卒生の就職実績や就職受験報告書を企業データに反映させた。

オ 既卒者支援

a ～b 大学ホームページに既卒生支援の案内を掲載し、求人問い合わせにはアオキャリや他検索方法の案内を行い、来学相談者には応募書類添削の支援や現状のカウンセリングを 14 回行った。

c 各学科教員からの既卒求人情報をまとめ、学科教員にメールで配信し、就職を希望する既卒者に対して求人案内の支援を行った。

③学内連携

ア 各学科との就職連絡会（月 1 回定期開催）

・毎月 1 回､各学科就職学年担任と学生の進路について現状の情報交換を行い、個別の就職支援方法を確認した。

イ 部長会議（定期開催）

・出席者が毎月 1 回、各部署部長、センター長との情報交換を行った。

ウ 事務連絡会議（定期開催）

・毎月 1 回、進路支援センターの状況や活動を報告し、各部署事務担当者と情報交換を行った。

(3) 自己点検・評価報告

① キャリア支援整備

「(2) 目標達成のための施策」に準ずる。

② アンケート（対象学科：健康栄養学科、子ども教育学科、調理製菓学科）

ア 就職先企業・事業所アンケート

卒業生採用実績企業 225 社を対象とし業務評価等内容のアンケートを送付し、90 社の回答を抽出した。（回答率：40.0%）

各事業所での本学卒業生の勤務状況についての質問項目に回答頂いた。求める人物像と実際の卒業生評価とのズレがあり、今後の学生支援内容構築の参考としたい。

イ 卒業生アンケート

過去 3 年卒業生 406 名にメールにてアンケートを送信した。宛先不明が 154 件あり、実質 252 名のアンケート送信となった。（回答率 13.1%）

離職率は 40%で、転職回数 1 回が最も多く、そのうち 46%が 1 年未満で退職している。理由は「休日が少ない」と「人間関係」が多く挙げられており、学生支援内容のセミナーで勤務条件の確認やコミュニケーション力を強化したいと考える。

【別紙】

回数	対象	内容	日程	時間	場所	担当
1	全体	「就職支援ミニセミナー」 ※詳細は別途掲示等でお知らせ	4月～	昼		就職課
2	2CAD	「学内企業説明会」	4月11日（木）	4・5限	5－211	企業（就職課）
3	2CA	「学内企業説明会」	4月15日（月）	3限	5－211	企業（就職課）
4	2CD	「学内企業説明会」	4月15日（月）	4限	5－211	企業（就職課）
5	2CAD	「学内企業説明会」	4月18日（木）	4・5限	5－211	企業（就職課）
6	2CA	「学内企業説明会」	4月22日（月）	3限	5－211	企業（就職課）
7	2CD	「学内企業説明会」	4月22日（月）	4限	5－211	企業（就職課）
8	2CAD	「就活のマナーについて」	5月9日（木）	4限	4－505	マイナビ
9	3H	「インターンシップについて」	5月17日（金）	2限	4－505	濱口 桂 先生
10	3N	「文章の書き方」	5月17日（金）	4限	2－601	濱口 桂 先生
11	2CAD	「履歴書、志望動機の作り方」	5月23日（木）	4限	4－505	就職課
12	3H	「学内インターンシップ」	5月24日（金）	2限	4－505	企業（就職課）
13	3N	「就活の進め方」	5月29日（水）	4限	2－401	マイナビ
14	3H	「学内インターンシップ」	5月31日（金）	2限	4－505	企業（就職課）
15	2H	「インターンシップについて」	6月6日（木）	5限	4－505	濱口 桂 先生
16	3H	「学内インターンシップ」	6月7日（金）	2限	4－505	企業（就職課）
17	1N	「キャリアデザインとは」	6月7日（金）	1限	2－301	赤穂 幸子 先生
18	1H	「キャリアデザインとは」	6月11日（火）	4限	210	赤穂 幸子 先生
19	1H	「自己紹介をしてみよう」	6月18日（火）	4限	210	津村 朗子 先生
20	2H	「文章が書ける！」	6月20日（木）	5限	4－505	濱口 桂 先生
21	3H	「落ちない就活その① グループディスカッション対策」	6月21日（金）	2限	4－505	濱口 桂 先生
22	2NB	「コミュニケーション力」	6月25日（火）	2限	2－601	寺田
23	2NA	「コミュニケーション力」	6月28日（金）	1限	2－301	寺田

注：対象欄の数字は学年、H=健康栄養学科、P=子ども教育学科、N=看護学科、CA=調理コース、CD=製菓コース、２CAD=短大２年、２NB=看護学科２年Ｂクラス、２NA=看護学科２年Ａクラスを示す。

24	1NB	「コミュニケーション力」	7月3日（水）	2限	2－301	寺田
25	1NA	「コミュニケーション力」	7月8日（月）	1限	2－601	寺田
26	2N	「実習前マナー研修」	7月11日（木）	4限	2－401	マイナビ
27	1N	「実習前マナー研修」	7月17日（水）	3限	4－505	マイナビ
28	3P	「一般企業の就活について」	10月16日（水）	3限	2-601	寺田
29	1H	「正式書類の書き方」	11月8日（金）	5限	210	寺田
30	3P	「困ったらどうする？」	11月13日（水）	3限	2-601	濱口 桂 先生
31	1H	「コミュニケーション力」	11月15日（金）	5限	210	寺田
32	2HB	「就活マナー」	11月19日（火）	4限	2-601	マイナビ森氏
33	3P	「就活マナー」	11月20日（水）	3限	2-601	マイナビ森氏
34	3H	「落ちない就活その② 自己PRの書き方」	11月26日（火）	5限	4-505	濱口 桂 先生
35	2HA	「就活マナー」	12月5日（木）	5限	2-602	マイナビ森氏
36	3H	「OB・OG座談会」	12月9日（月）	3・4限	4-505	就職課
37	HPC	「他大学合同ｸﾞﾙｰﾌﾟﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ 8時間ﾛｰﾄﾞ」	12月14日（土）	10時～18時	大阪学院大学	濱口 桂 先生
38	HPC	「他大学合同グループディスカッション 特訓講座＆企業交流会」	12月21日（土）	9時半～17時	追手門学院大学	濱口 桂 先生
39	3H	「落ちない就活その③ ガクチカの書き方」	1月7日（火）	5限	4-505	濱口 桂 先生
40	2HB	「業界研究 ～管理栄養士の可能性～」	1月14日（火）	4限	2-601	濱口 桂 先生
41	3H	「落ちない就活その④ 志望動機の作り方」	1月14日（火）	5限	4-505	濱口 桂 先生
42	2HA	「業界研究 ～管理栄養士の可能性～」	1月16日（木）	5限	2-602	濱口 桂 先生
43	2H	「他大学合同インターンシップ」	2月3日（月）	13時～16時	4-505	就職課
44	2H	「他大学合同2年次インターンシップ」	2月6日（木）	13時半～16時半	千里金蘭大学	
45	3N	「自己PR・志望動機」	3月2日（月）	13時～15時	2-801	濱口 桂 先生
46	3N	「集団面接」	3月3日（火）	10時～13時 14時～17時	2-301	就職課
47	3H	「学内企業説明会withまるごとセミナー」	3月5日（木）	10時～15時	4号館5階	

6　入試部

(1) 令和 2 年度入試結果（総括）

令和 2 年度入試の結果について、大学の学部全体及び学科別入学定員に対する入学定員充足率は、学部全体では 1.06 倍（前年 0.97 倍）であった。各学科の入学定員充足率は健康栄養学科の 0.98 倍（前年 0.99 倍）、子ども教育学科は 1.05 倍（前年 0.93 倍）、看護学科では 1.16 倍（前年 1.00 倍）となり、健康栄養学科が僅かに前年を下回ったが、学部全体としては前年を上回る入学者を確保できた。

学部全体の入学定員に対する実質志願倍率は 2.3 倍と前年度より 0.3 ポイント上昇し、総志願者数は 545 名（前年 488 名：奨学金チャレンジ志願者除く）であった。

次に入試区分別・学部全体志願者の動向では、AO・推薦入試（指定校、スポーツ含む）を合わせて 58.9%（前年 56.6%）、一般入試（センター利用入試・社会人入試を含む）から志願者の割合は 41.1%（前年 43.4%）となり、前年度以上に年内入試の志願率が上昇している。これは、次年度に迫った入試改革に備えて、早期に進路を決定したい高校生の思惑が反映されたとものと思われる。

地域別志願者の動向では、近畿 2 府 4 県からの志願者は 473 名となり、前年の 425 名より 48 名増加した。ちなみに大阪府・兵庫県からの志願者は 432 名と前年の 381 名から 51 名増加した。これは近隣地域への広報戦略の効果が出たものと思われる。一方近畿以外からの志願者も 72 名と、前年の 63 名を上回る結果となった。

(2) 令和 2 年度入試の学生募集活動報告

本年度の入試方針は質的・倍率の向上を目指すことを第一に学生募集活動を行ってきた。

学科により差はあるが、平均競争倍率は 1.64 倍と、前年の 1.57 倍を 0.07 ポイント上回る結果となった。

以下に本年度の入学試験に関わる方策や広報活動結果を明記する。

① 入試制度改革の概要

ア 特別推薦入試

指定校、指定学科、及び指定条件（評定平均値）の見直しを行った。

イ AO 入試

新たに看護学科でもＡＯ入試を 1 日程導入した。

ウ 公募制推薦

面接試験時間を各学科 5 分延長し、健康栄養学科と子ども教育学科は個人面接 15 分、看護学科はグループ面接 20 分とした。

エ 一般入試

Ａ日程の地方会場に京都会場を追加した。

② 広告媒体は、昨年に引き続いて予算削減方針が打ち出されたため、広告の出稿を減らしたが、種々の工夫により、資料請求者数は 1.5%増加した。

高校 3 年生や既卒者の受験該当学年に限った学科ごとの増減は、健康栄養学科は 26.9%増加、子ども教育学科は 1.7%減少、看護学科は 2.4%増加となった。また全学年の資料請求者では、健康栄養学科 26.6%増、子ども教育学科 1.2%増、看護学

科 5%増であった。
次年度も広報予算は減少するが、資料請求者（一次接触者）が減らないようにしたい。

③ オープンキャンパス動員数は、前年比 2.3%増加となったが、看護学科の 19.4%増加の影響が大きい。健康栄養学科は 5.9%減少、子ども教育学科では 5.2%減少となり、2 学科ではオープンキャンパス参加者数と出願者数の増減に対する逆転現象が起こった。

案内告知は、早期より高校への案内送付と訪問時の案内、個人には本学公式サイトや各種 Web 広告、受験雑誌、ガイダンス時の対面広報と 5 回実施のダイレクトメールなどと共に、今年度より始めたリピーター特典（AOCA カード）の告知、公式サイトの申込みフォーム掲出、リ・ターゲティング広告とジオ・ターゲティング広告の出稿など、新しい試みも一定以上の成果を上げた。

④ 高校訪問は延べ 646 校、前年より 13.7%増加、会場・校内ガイダンスへの参画も 10.2%増加した。今期途中から人員の補充があったおかげで、訪問校数・参画数共に増やすことができたが、令和 2 年 2 月 28 日の休校措置以降は、予定していた高校訪問・進学ガイダンス共に実施不可となり断念した。

(3) 広報活動に関する取組み

① リニューアルした大学公式サイトの完成とユーザビリティの向上を図った。

② Web 広告の導入。本学公式サイト、関連する記事や語句等への閲覧者に訴求するリ・ターゲティング広告や、GPS の位置情報により高校所在地等への訪問者に訴求するジオ・ターゲティング広告を利用し、オープンキャンパス動員増や一般入試出願促進を図った。Web を介した来場者は増えたが、単年では効果測定が困難なため、継続して取り組みたい。

② 高校訪問・進学ガイダンスの合間に学習塾・個別指導塾への訪問を行った。未だ試行程度の訪問数であるが、大手個別塾の本部を訪問し、当塾出身の本学受験者リストを入手する等の成果をあげた。教室訪問も含め、次年度もさらに訪問件数を増やし本格稼働させたい。

④ 資料請求者や高校へ直接届くダイレクトメールや FAX を、年間を通じ有機的に連動させる展開をおこなった。ほぼ年間を通じて実施するオープンキャンパスと出願期間に的を絞った出願促進を、タイミングを重視して送り続け、一定の成果をあげた。オープンキャンパスや高校訪問が実施できない事態が起きても、高校生と高校進路指導部へ定期的に情報を届けることができる有効な手段である。

ⅷ 青山幼稚園

1 令和元年度の園児数と学級編成（令和元年 5 月 1 日現在）

年長組 5 クラス 127 名
年中組 6 クラス 145 名
年少組 6 クラス 120 名　　17 クラス：392 名

2　令和元年度に実施した行事

4 月　第 54 回入園式・進級式

5 月　保育参観・園外保育・内科検診・歯科検診・避難訓練・後援育友会総会

6 月　歯磨き訓練・ふれあい動物村・水遊び・日曜参観・プラネタリウム

7 月　七夕まつり・星まつり（2 回延期後中止）・個人懇談会・宿泊保育・元年度同園会・夏期保育

9 月　入園説明会・園児募集・運動会

10 月　令和 2 年度園児募集受付開始・入園検定・園外保育（栗拾い、芋掘り）

11 月　観劇会・園外一斉保育・避難訓練・七五三

12 月　生活発表会・おもちつき・クリスマス会・終業式

1 月　避難訓練・保育参観

2 月　豆まき・絵画制作展・個人懇談会・観劇

3 月　第 54 回卒園式　（縮小の形にて実施）

ひな祭り・全園児お別れ会・お別れ会・謝恩会

修了式に関しては令和 2 年 3 月 2 日からの休園要請により、実施せず。

※学期ごとに終業式、始業式実施

※月ごとに「お誕生会」実施

3　教材・備品等の設置場所確保・駐車スペースの管理等

(1) 新園舎（南館）改築に伴い確保された駐車スペースの管理。

(2) 新園舎（南館）改築に伴う教材庫等の確保及び教職員休憩室の設置。

4　環境整備

(1) 園内の樹木の剪定、整備、花壇の整備と季節を彩る花を栽培し、季節感に溢れた園内に努め、園児が豊かな自然に触れあえる環境作りを進めた。

(2) 既存施設設備等の安全・点検に努めた。

(3) 施設設備の修理等は予算上実施できず。

（リズム室の雨漏れ、物置の改築・園庭階段、遊具等）

(4) 令和2年3月より厨房施設改修工事を行い､食育に向けた環境整備を進めている。

(5) 通園バスの入替を図り、通園環境等の整備を進めた。

5　教員組織の資質向上と充実

(1) 年間研修計画に基づき、各種団体主催の研修会に参加すると共に、園内においての研修実施、引き続き外部講師による音楽の教員実技研修会を実施した。

(2) 教職員の採用、確保は大学と連携できず、積極的に推進するが採用に繋がる結果を得ることができなかった。

(3) 年少組や配慮を要する幼児への補助教員の配置、保育の充実を図った。

(4) 年間研修計画に基づき、保育研究授業を進めるが実施するに至らず。

(5) 大阪青山大学の教職員との連携を進め、保育・教育の充実、教員の指導力の向上

に努め子ども教育学科の教育実習と看護学科の実習に協力した。

6　園児サービスの向上、保護者との連携の推進

(1) ホームページや園だより、クラス便り等を活用し、日々の保育・教育、行事等の様子等を積極的に発信し、保育、教育への理解を図り、保護者、後援育友会と連携、協力し、充実した活動を進めた。

(2) 園行事の評価・改善、充実に努め、後援育友会との連携を積極的に進めた。

(3) 通園バスのコース、便数、時間などを踏まえ、より安全で便利な送迎に努めた。

(4) 火災、地震、バス事故などを想定した避難訓練を実施し、安全管理に努めた。

(5) 開園時や長期休業中の預かり保育を実施し充実を図った。

(6) 未就園児教室「青葉の会」の園児が年少組へスムーズに入園出来るよう保育の一層の充実と本園への入園のための情報提供や説明に努めた。

(7) 平成30年度より開始した英語教育の充実を図った。

7　地域との交流推進

(1) 近隣地区、近隣小中学校との連携を図った。

(2) 中学校職業体験学習に協力した。

(3) 地域運動会等の地域行事に協力した。

8　令和2年度の園児募集

入園説明会、体験入園や入園案内パンフレット等で、本園の保育理念、特色ある活動等を丁寧に紹介、PRするとともにホームページのブログで日々の保育や行事における園児の様子や活動内容を積極的に紹介し、園児募集に努めた。

9　その他

全日本私立幼稚園連盟・大阪府私立幼稚園連盟・三島地区私立幼稚園連盟・吹田市私立幼稚園園長会などの構成員として参加、協力した。